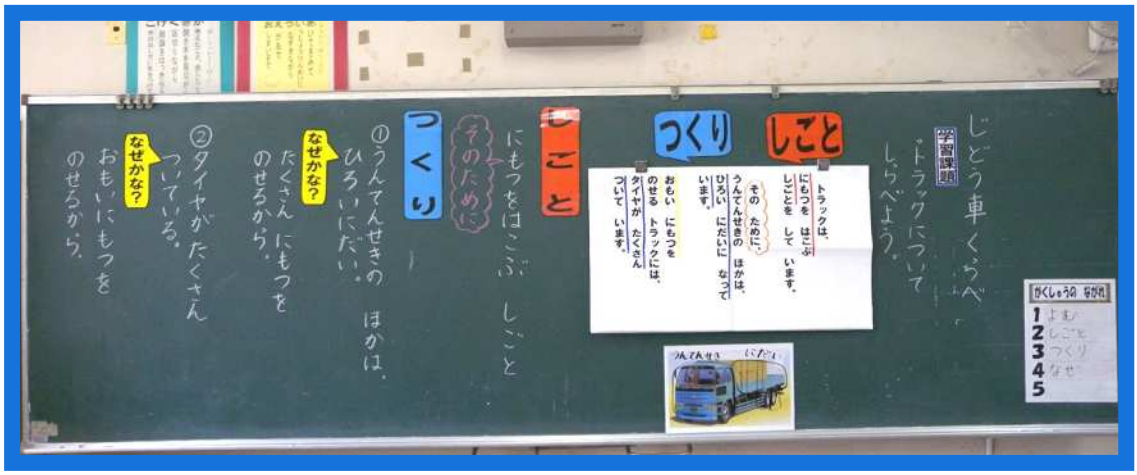
# ユニバーサルデザイン
# の考えを取り入れた
# 授業づくりガイドブック



令和8年4月

さいたま市教育委員会

特 - 8

# はじめに

この「ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりガイドブック」は、特別な教育的支援を必要とする児童生徒を含めた全ての児童生徒にとって分かりやすい授業づくりや生活しやすい学級づくりの推進を目的とし、作成しました。

特別支援教育は、ここ数年で法律の改正をはじめ大きく変化してきています。平成 24 年７月中央教育審議会が「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」について報告を出しました。また、平成28年４月には、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供が義務化されました。本市でも、「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例（ノーマライゼーション条例）」を制定し、障害のあるなしに関係なく、安心して生活を送ることのできる地域社会を目指しています。教育委員会といたしましても、こうした社会の動向に適切に対応し、共生社会の形成を目指し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進しています。

このガイドブックは、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業づくりを推進するために、さいたま市独自で作成したものであり、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくり・学級づくりを進める上での参考となる実践事例集となっています。

本ガイドブックを、通常の学級の教員だけでなく全職員に活用していただき、子ども一人ひとりが「分かる、できた、楽しい」と感じられる授業が展開されることを期待しています。

令和８年４月

さいたま市教育委員会　特別支援教育室長

# 目　　次


## Ⅰ　共生社会形成を目指した特別支援教育の推進のために

１　インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進　・・１
２　ユニバーサルデザインとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
３　通常の学級担任に求められる専門性・・・・・・・・・・・・・・・・２

## Ⅱ　ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業

１　ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業とは・・・・・・・・３
２　通常の学級における特別支援教育の支援の段階・・・・・・・・・・３
３　ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりのポイント・・３
４　実践例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

実践例１　教室を温かい雰囲気にする工夫（小学校）・・・・・・・・・・・５
実践例２　言葉で伝えよう（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
実践例３　学年どこでも同じ環境で（中学校）・・・・・・・・・・・・・・６
実践例４　学年どこでも同じルールで（中学校）・・・・・・・・・・・・・６
実践例５　学級への所属感を高める工夫（小学校）・・・・・・・・・・・・７
実践例６　仕事の内容の明確化と確認するための工夫（中学校）・・・・・・７
実践例７　一目で分かる整理整頓された環境①（小学校）・・・・・・・・・８
実践例８　一目で分かる整理整頓された環境②（小学校）・・・・・・・・・８
実践例９　整理整頓しやすい環境づくり①（小学校）・・・・・・・・・・・９
実践例１０　整理整頓しやすい環境づくり②（小学校）・・・・・・・・・・９
実践例１１　整理整頓しやすい環境づくり③（中学校）・・・・・・・・・・１０
実践例１２　整理整頓しやすい環境づくり④（小学校）・・・・・・・・・・１０
実践例１３　整理整頓しやすい環境づくり⑤（小学校）・・・・・・・・・・１１
実践例１４　整理整頓しやすい環境づくり⑥（中学校）・・・・・・・・・・１１
実践例１５　準備・片付けがしやすくなる工夫①（小学校）・・・・・・・・１２
実践例１６　準備・片付けがしやすくなる工夫②（幼稚園）・・・・・・・・１２
実践例１７　刺激の少ない教室環境（小学校）・・・・・・・・・・・・・・１３
実践例１８　朝の支度を自分たちでスムーズに①（小学校）・・・・・・・・１４
実践例１９　朝の支度を自分たちでスムーズに②（小学校）・・・・・・・・１４
実践例２０　手順を具体化して、しっかり清掃①（中学校）・・・・・・・・１５
実践例２１　手順を具体化して、しっかり清掃②（中学校）・・・・・・・・１５

実践例２２　給食の手順を具体的に（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・１６
実践例２３　給食のルールや進め方の統一（中学校）・・・・・・・・・・・・・１６
実践例２４　自分で行動できるための工夫①【清掃】（中学校特別支援学級）・１７
実践例２５　自分で行動できるための工夫②【職員室の入り方】（小学校）・・１７
実践例２６　見通しをもった生活をするために①（中学校）・・・・・・・・・１８
実践例２７　見通しをもった生活をするために②（小学校）・・・・・・・・・１８
実践例２８　先を見通すために（中学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
実践例２９　分かりやすい朝のショートホームルームの連絡（高等学校）・・・１９
実践例３０　分かりやすい宿泊行事のしおり（小学校）・・・・・・・・・・・２０
実践例３１　公共交通機関を利用するときのマナーをサイレントサインで（小学校）
・・・・・・・２０
実践例３２　主体的に行事に参加するための工夫（小学校）・・・・・・・・・２１
実践例３３　落ち着いて健康診断を受けるために（小学校）・・・・・・・・・２１
実践例３４　健康診断をスムーズに受診するための環境づくり（小学校）・・・２２
実践例３５　持ち帰るものを忘れずに（小学校）・・・・・・・・・・・・・・２３
実践例３６　持ち物のルールを確認するための工夫（小学校）・・・・・・・・２３
実践例３７　自分たちで動くチャイム着席（中学校）・・・・・・・・・・・・２４
実践例３８　声のものさし（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
実践例３９　モデルを示して正しい行動を①【鉛筆の持ち方】（小学校）・・・２５
実践例４０　モデルを示して正しい行動を②【姿勢】（小学校）・・・・・・・２５
実践例４１　発表の仕方のモデルを示す（小学校）・・・・・・・・・・・・・２６
実践例４２　学習姿勢のモデルを示す（小学校）・・・・・・・・・・・・・・２６
実践例４３　机の上は準備OK（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
実践例４４　いつまでやるのかを明確にする工夫（小学校）・・・・・・・・・２７
実践例４５　分からないことがあっても大丈夫（小学校）・・・・・・・・・・２８
実践例４６　分からないことは相談しよう（中学校）・・・・・・・・・・・・２８
実践例４７　指示の出し方、言葉かけの工夫・・・・・・・・・・・・・・・・２９
実践例４８　授業の構造化【理科】（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・３０
実践例４９　授業の構成、板書の工夫【特別の教科　道徳】（小学校）・・・・３１
実践例５０　話合いの流れが見える板書と共有化の場の工夫【特別活動（学級会）】
（小学校）・・・・・・・・・・３２
実践例５１　導入の工夫と児童の考えが見えるワークシートの工夫【算数】（小学校）
・・・・・・・・・３３
実践例５２　作業の流れを分かりやすく【図画工作】（小学校）・・・・・・・３４
実践例５３　活動の手順を理解して活動しよう【家庭科】（小学校）・・・・・３４
実践例５４　学び合おう【ペア・グループ学習】（小学校）・・・・・・・・・３５
実践例５５　意欲を高める言葉かけ【体育】（小学校）・・・・・・・・・・・３５

実践例５６　体験的な活動で理解を深める【国語】（小学校）・・・・・・・・３６
実践例５７　授業の中に様々な活動を取り入れる【理科】（小学校）・・・・・３６
実践例５８　半具体物を用いた授業の工夫【算数】【体育】（小学校）・・・・３７
実践例５９　文章構成を視覚化する【国語】（小学校）・・・・・・・・・・・３７
実践例６０　活動の流れの視覚化【グローバル・スタディ】（小学校）・・・・３８
実践例６１　構音の可視化・動作化【グローバル・スタディ】（小学校）・・・３８
実践例６２　ＩＣＴを活用した授業①【英語】（高等学校）・・・・・・・・・３９
実践例６３　ＩＣＴを活用した授業②【英語】（高等学校）・・・・・・・・・３９
実践例６４　言語化して形を学習しよう【国語】（小学校）・・・・・・・・・４０
実践例６５　考える時間を増やすための工夫【算数】（小学校）・・・・・・・４０
実践例６６　リコーダーが吹ける㊙ 方法【音楽】（小学校）・・・・・・・　４１
実践例６７　音を視覚化して【音楽】（小学校）・・・・・・・・・・・・・・４１
実践例６８　今、することとは？（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・４２
実践例６９　今、取り組んでいるページ・必要な資料は？（中学校）・・・・・４２
実践例７０　既習事項のキーワードを活用した板書【算数】（小学校）・・・・４３
実践例７１　たしざん？ひきざん？【算数】（小学校）・・・・・・・・・・・４３
実践例７２　感想を発表するためのヒントカード（小学校）・・・・・・・・・４４
実践例７３　作文を書くためのヒントカード（小学校）・・・・・・・・・・・４４
実践例７４　選択式ワークシートの工夫①【生活科】（小学校）・・・・・・・４５
実践例７５　選択式ワークシートの工夫②【国語】（小学校）・・・・・・・・４５
実践例７６　ヒントつきワークシートの工夫①【算数】（小学校）・・・・・・４６
実践例７７　ヒントつきワークシートの工夫②【算数】（小学校）・・・・・・４６
実践例７８　選択式の課題設定の工夫①【英語】（中学校）・・・・・・・・・４７
実践例７９　選択式の課題設定の工夫②【国語】（小学校）・・・・・・・・・４７
実践例８０　自分でできるワークシートの工夫【国語】（小学校）・・・・・・４８
実践例８１　学習の見通しをもつ【総合的な学習の時間】（小学校）・・・・・４８
実践例８２　目当てを自分で選び自己評価する（小学校）・・・・・・・・・・４９
実践例８３　学習を振り返る（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
実践例８４　特別支援教育の視点を取り入れた授業展開例（小・中学校）・・・５０
実践例８５　特別支援教育の視点を取り入れた教室環境例（小・中学校）・・・５２
実践例８６　ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を活用した授業の工夫
・・・・・・・53
５　生徒指導の視点から【学級づくり・授業づくり】　・・・・・・・55
６　教科指導の視点から【授業づくり】　・・・・・・・・・・・・・・58

# Ⅰ　共生社会形成を目指した特別支援教育の推進のために

## １インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進

平成１９年度に文部科学省は特別支援教育のスタートに際して「特別支援教育の推進について」を通知しています。これによれば、特別支援教育は、それまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、発達障害も含めて特別な支援を必要とする子どもが在籍する全ての学校において実施されるものとしています。また、特別支援教育は、共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味をもっているとしています。

平成１８年度に国連総会において「障害者の権利に関する条約」が採択され、我が国では、平成２３年８月に障害者基本法の一部改正、平成２４年７月に、中央教育審議会より「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」が報告されるなど、条約批准のための準備がなされてきました。そして、平成２６年１月に「障害者の権利に関する条例」が批准され、２月に発効されました。この条約では、教育について「インクルーシブ教育システム」の充実と「合理的配慮」の提供が求められています。

「インクルーシブ教育システム」においては、障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り同じ場で共に学ぶことを追求するとととともに、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要であるとされています。また、その場合には、障害のある子どもと障害のない子どもそれぞれが、授業内容が分かり、学習に参加している充実感や達成感を得ながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうかが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要であるとされています。

さらに、「インクルーシブ教育システム」の構築に向けた取組として「基礎的な環境整備」を図ること、その上で「合理的な配慮」を工夫していくことが求められています。その際、「ユニバーサルデザインの考え方」も考慮しつつ、進めていくことが重要と指摘されています。

## ２　ユニバーサルデザインとは

「障害者の権利に関する条約」においては、「ユニバーサルデザイン」とは、調整または特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することができる製品、環境、計画及びサービスの設計とされています。

ユニバーサルデザインの考え方は、アメリカの建築家であり工業デザイナーでもあったロナルド・メイス教授らにより提唱され、『ユニバーサルデザイン７原則』が示されました。

【ユニバーサルデザイン７原則】
原則１：誰にでも公平に利用できること
原則２：使う上で自由度が高いこと
原則３：使い方が簡単ですぐわかること
原則４：必要な情報がすぐに理解できること
原則５：うっかりミスや危険につながらないデザインであること
原則６：無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
原則７：アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

さいたま市では『ユニバーサルデザイン７原則』を独自に ４ つのプラス・ハートに読み替えました。

【さいたま市の４つのプラス・ハート】（ユニバーサルデザイン推進基本指針より）
プラス・ハート１：だれにでも「ちょうどいい」
プラス・ハート２：だれにでも「無理なく楽に」
プラス・ハート３：だれにでも「わかりやすい」
プラス・ハート４：だれにでも「安心・安全」

## ３　通常の学級担任に求められる専門性

通常の学級は、障害のある子どもを含む多様な教育的ニーズのある子どもで構成されています。障害のあるなしにとどまらず、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行うとともに、子ども一人ひとりの違いを尊重し相互に理解しながら学ぶことを通して、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基盤となる資質を培う場として位置付けることができます。

先にあげた、平成２４年 ７ 月の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の中では、通常の学級担任に求められる専門性として「すべての教員は、特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められる。特に発達障害に関する一定の知識・技能は、発達障害の可能性のある児童生徒の多くが通常の学級に在籍していることから必須である。」とあります。

インクルーシブ教育システム構築のためには、通常の学級の教員は、障害を含む多様な教育的ニーズのある子どもを理解し、教室環境を整備し、学級づくり、授業づくり、生徒指導などに取り組むことが必要です。

## Ⅱ　ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業

### １　ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業とは

「障害者の権利に関する条約」で定義されているユニバーサルデザインの考えを考慮すると、「ユニバーサルデザインの考えを授業に取り入れる」とは、「個別的な調整または　特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で、すべての子どもがよく分かる授業をつくること」であると考えられます。

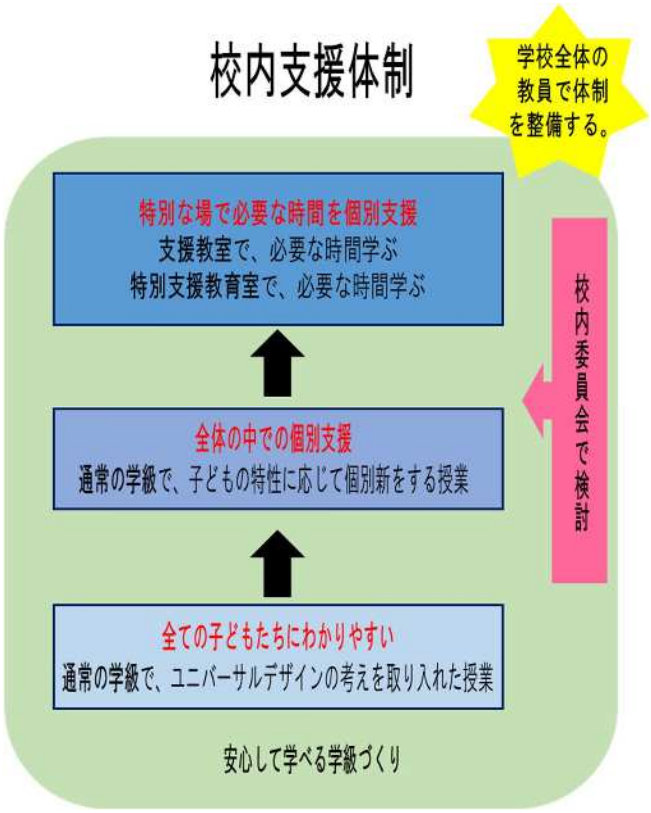
一斉の授業で学習に困難を抱えた児童生徒に対して行う工夫が、その児童生徒以外にとってもよりよい理解に役立つことがあります。このような観点から、困難を抱えた児童生徒を含む全員が参加し、理解を深めることができる授業をつくっていくことが、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりであるといえます。

### ２　通常の学級における特別支援教育の支援の段階

通常の学級の授業では、ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、クラス全員が授業に参加し、理解できるように、指導の工夫をしていきます。

それでも、学習に困難を抱え、授業中に活動が停滞してしまう児童生徒が出てくるかもしれません。その時は、授業内で個別に様子を見取り、個別に支援・指導をしていきます。

さらに、授業時間内にできる限りの指導の工夫、個別の配慮を行っても、やはり学習に困難を抱えてしまう児童生徒がいた場合は、特別な場での個に特化した指導が必要な場合があります。




### ３　ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりのポイント

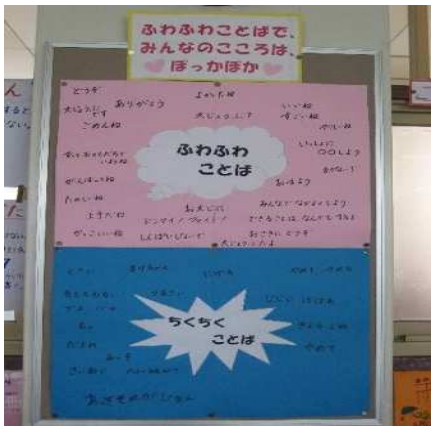
ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりのポイントの例を次の表にまとめました。学級づくりは授業を行う上での基盤であり、また、個別の指導を可能とするための基盤でもあることから、学級づくりのポイントも授業づくりの一つの視点として示しています。

## 【ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりのポイント】

<table>
<tr>
<td>学級づくり</td>
<td>
◎安心できる・居場所のある学級<br>
・所属感がある<br>
・全員が活躍できる場がある<br>
・一人ひとりの違いを認め合える<br>
・分からない、困っていると言える雰囲気がある<br>
◎整理された環境<br>
・何をどこにおけばよいかが分かる環境をつくる<br>
・生活の見通しがもてる環境をつくる<br>
（先のスケジュールや１日の流れなどの見通し等）<br>
・視覚的・聴覚的に刺激の調整された環境をつくる<br>
（黒板周辺のすっきり化・整理されカテゴリー化された掲示・教師の言語量の調整等）<br>
◎明確なルール<br>
・ミニマムスタンダードを統一する<br>
・暗黙の了解を分かりやすく提示する<br>
・生活のルール、学習のルールを明確にし、守る経験を積み重ねる
</td>
<td rowspan="2">
◎学習や活動への意欲の持続<br>
・ほめる・認める機会をつくる（できているときに認める・ほめる、結果だけでなく過程を認める・ほめる等）<br>
・頑張ったことの蓄積が見える評価を工夫する<br>
（がんばりカード、自己評価カード　等）<br><br>
◎学習や活動の振り返り<br>
・課題を明確にして、その成果を振り返る<br>
（スモールステップの目標設定、できたかどうかが分かる具体的な目標、どうしたら上手くいくのかを考える　等）<br>
・児童生徒に伝わる評価をする<br>
（「○○がよかった」「○○したほうがよい」等具体的に）<br>
・子ども同士がよいところを認め合える場をつくる（相互評価の工夫）
</td>
</tr>
<tr>
<td>授業づくり</td>
<td>
◎授業構成の工夫<br>
・導入の工夫で意欲や集中を高める<br>
・見通しを示す<br>
・何を学ぶのかを明確にする（焦点化）<br>
・学習を構造化し、集中の持続を図る<br>
（ユニット化、動作化、作業化、一定化した授業の流れ　等）<br>
・はじまりと終わりを明確にする<br>
・全員が活動できる、学び合える場を工夫する<br>
（ペア学習で全員が発表する機会をつくる・グループで意見を交換する等）<br>
◎情報伝達の工夫<br>
・指示・発問・説明を工夫する<br>
（前置きして指示を出す・指示を短く・声のトーンや話のスピードを変化させる等）<br>
・非言語指示を工夫する<br>
（刺激の除去にもつながる、ＯＫサイン・アイコンタクト・サイレントサイン・ヘルプカード　等）<br>
・視覚的な情報を提示する<br>
（ＩＣＴの活用・板書の工夫・タイマーの活用・思考の視覚化　等）<br>
◎一人ひとりの学びへの対応<br>
・自分の力を発揮して課題を遂行できるような支援を工夫する<br>
（複数のプリントの用意、ワークシートやヒントカード、チャレンジ課題の用意　等）<br>
・学び方の違いへの対応を工夫する<br>
（動作化・具体物の活用・視覚情報と聴覚情報の提示・ＩＣＴの活用　等）
</td>
</tr>
</table>

## ４　実践例

| 実践例　１ | 教室を温かい雰囲気にする工夫　小学校 |
|---|---|




【目的】
　児童が相手の気持ちを考え、声をかけたり行動したりすることで、お互いを認め合い尊重する集団づくりを目指す。
【解説】
　言われてうれしい言葉を「ふわふわことば」、言われて悲しくなる言葉を「ちくちくことば」として掲示。毎日、朝や帰りの会で考え合う。

こんな成果がありました！

　多くの児童が気持ちのよい言葉を探し、生活の中で使おうとしていました。

| 実践例　２ | 言葉で伝えよう　小学校 |
|---|---|

【目的】
　自分の気持ちを言葉で友達に伝えられるようにする。
【解説】
　友達に乱暴な言葉を使ったり、力で分からせようとしないように、気持ちを伝える言い方を考えさせ、掲示した。また、場面や相手によって使い分けることについて話し合った。

その言葉にかかわった児童の名前を記入させることで、評価につなげた。

こんな成果がありました！

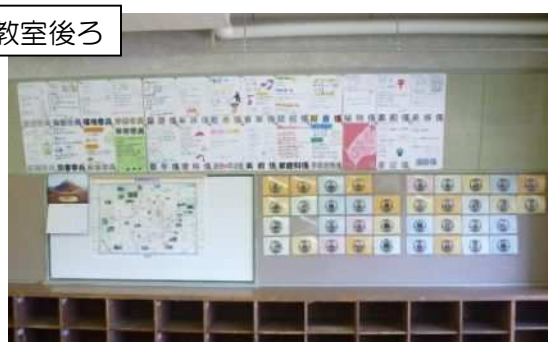
　相手の気持ちを考えた言動をしようとする児童が増えました。また、言葉で伝えることはお互いに気持ちのよいことだと気付くことができました。

**【特別支援教育の視点から】**
　気持ちや行動コントロールの苦手な児童生徒にとっては、ちくちく言葉が減ることは、トラブルを起こす危険を減らす環境となります。
　語彙の少ない児童生徒にとっては、言葉の使い方のモデルとなります。
　他者の気持ちに気付くことが苦手な児童生徒にとっては、気持ちに気が付くきっかけにもなります。また、気持ちが言語化できるようになると気持ちをコントロールする力も付いてきます。

| 実践例　３ | 学年どこでも同じ環境で　中学校 |
|---|---|

教室の前

教室後ろ



【目的】

教室内の掲示物の配置を学年で同じにすることで、教室を移動して授業や活動をした際も安心感と集中力を高める。

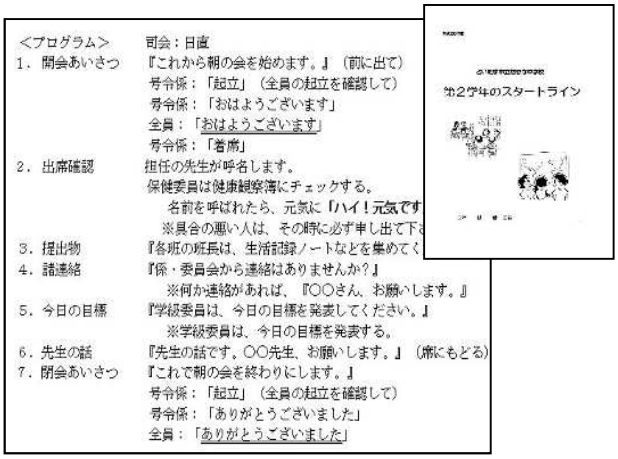
【解説】

教室の前の掲示物と後ろの掲示物の配置等を学年のどの教室も同じにする。各委員会などが中心となって掲示物の貼り替えなどを行う。

こんな成果がありました！

新しいクラスになっても、同じ環境で生活できるので、新年度になっても落ち着いた学校生活を送ることができています。

| 実践例　４ | 学年どこでも同じルールで　中学校 |
|---|---|



＜プログラム＞　司会：日直

1．開会あいさつ　『これから朝の会を始めます。』（前に出て）
号令係：「起立」（全員の起立を確認して）
号令係：「おはようございます」
全員：「おはようございます」
号令係：「着席」

2．出席確認　担任の先生が呼名します。
保健委員は健康観察簿にチェックする。
名前を呼ばれたら、元気に「ハイ！元気です
※具合の悪い人は、その時に必ず申し出て下

3．提出物　『各班の班長は、生活記録ノートなどを集めてく

4．諸連絡　『係・委員会から連絡はありませんか？』
※何か連絡があれば、『○○さん、お願いします。』

5．今日の目標　『学級委員は、今日の目標を発表してください。』
※学級委員は、今日の目標を発表する。

6．先生の話　『先生の話です。○○先生、お願いします。』（席にもどる）

7．閉会あいさつ　『これで朝の会を終わりにします。』
号令係：「起立」（全員の起立を確認して）
号令係：「ありがとうございました」
全員：「ありがとうございました」




【目的】

どこの学級でも同じ指導がされることで、安心して学校生活を送れるようにする。

【解説】

「スタートライン」という冊子を学年のスタート時に配付し、学校生活の一日の流れや係、給食、清掃などの活動の流れ、学校生活を送るためのルールについて確認する。朝の会や帰りの会のプログラムについても全クラス同じ流れで進める。

こんな成果がありました！

進級してクラスが変わっても同じ流れで生活できるので安心して過ごすことができています。

**【特別支援教育の視点から】**

初めての環境に慣れることに時間がかかる児童生徒にとっては、新しい学年になっても同じ環境があることで、安心して学年のスタートすることができます。

| 実践例　５ | 学級への所属感を高める工夫　小学校 |
|---|---|

【目的】

学級の係活動の内容を具体的にし、評価することで自ら進んで行えるようにする。

【解説】

各係の下に担当児童の写真を掲示する。仕事が未完のときは悲しい顔、終了すると裏返すことで「ヤッター」という顔の写真になる。係全員が終了すると○が書かれ、各自にシールが配付される。

こんな成果がありました！

仕事を行うと写真を裏返し、○やシールがもらえることなどから、児童が積極的に楽しく活動するようになりました。

| 事例　６ | 仕事の内容の明確化と確認するための工夫　中学校 |
|---|---|

【目的】

週番の仕事分担を明確化し、掲示することで忘れないようにする。

【解説】

各自が仕事を行ったら札を裏返す。全員が終わったら「おつかれさま」「おわりました」と文字が並ぶ。札の下にはホワイトボード専用のペンで、その週の当番の名前を班長が記入する。

こんな成果がありました！

仕事を忘れずに行えるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

覚えておくことが苦手で、仕事をつい忘れがちな児童生徒にとって、視覚的な手がかりがあることで、忘れずに仕事をすることができます。

評価や役割終了の確認があることで、学級に貢献している実感を得られるとともに、主体的な活動への意欲付けとなっています。

| 実践例　７ | 一目で分かる整理整頓された環境　①　　小学校 |
|---|---|

【目的】
　ファイルを手早く出し入れする。
【解説】
　班ごとに、ファイルボックスに整理したり、色分けすることで、手早く自分たちの班のファイルを見つけられるようにする。班の係が集配しやすくする。

こんな成果がありました！

　自分の班の場所がすぐに分かるため、取り出すときも収納するときも手際よくできるようになり、時間の短縮と整理整頓に役立っています。

| 実践例　８ | 一目で分かる整理整頓された環境　②　　小学校 |
|---|---|

【目的】
　児童が教室の中で、何がどこにあるのか、一目で分かりやすくした。
【解説】
　箱の色を統一することで視覚的な刺激を減らすようにし、文字で分類を示した。

こんな成果がありました！

　自分たちで物の置き場所が分かるため、自分たちで探したり片付けたりしやすく、指示をすることが減りました。

**【特別支援教育の視点から】**
　視覚的な情報を整理することが苦手な児童にとっては、見つけやすい環境になっています。
　分かりやすい環境のため、児童生徒が自分から片付けたり見つけたり出来るので、教員が感謝したり称賛したりすることを増やすことのできる環境になっています。

| 実践例　９ | 整理整頓しやすい環境づくり　①　小学校 |
|---|---|

【目的】

全校で、どの児童生徒も、使いやすく、清掃用具を、きれいに片付けることができるようにする。

【解説】

美化委員会の児童が清掃用具をきれいに片付けられるよう、清掃用具のよい入れ方を写真で取って掲示した。清掃用具点検のときも、評価の基準としている。

こんな成果がありました！

清掃用具の配置が一目で分かるため、当番が変わってもきちんと片付けられるようになりました。

美化委員会の点検活動も、一致した基準で、スムーズに行えています。

| 実践例　１０ | 整理整頓のしやすい環境づくり　②　小学校 |
|---|---|

【目的】

給食後の片付けを、写真と言葉で見本を示すことで、児童がきれいに片付けられるようにする。

【解説】

バケツや桶、牛乳パックの整理された並べ方を写真にとり、ラミネートして配膳台近くに掲示しておくことで、写真通りに片付けができるようにした。

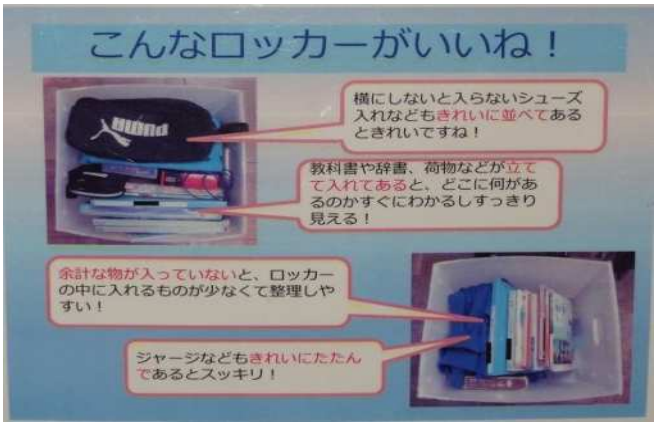
こんな成果がありました！

以前は雑であった牛乳パックの片付け方でしたが、丁寧に片付けられるようになりました。写真に吹き出しを加え、意識が高まり、自分できれいにするようになったため、教員が児童にありがとうと言ったり、称賛したりする機会が増えました。

**【特別支援教育の視点から】**

どのように片付けるか分からない児童生徒にとって、見本や明確な基準となっています。また、「きれいに片付ける」ことがどのような状態であるのかが、全ての児童生徒、教員にとって具体化されます。

| 実践例　１１ | 整理整頓しやすい環境づくり　③　　中学校 |
|---|---|




【目的】
　ロッカーの使い方を視覚に訴えることにより、個人ロッカーの整理整頓が図れるようにする。
【解説】
　見本となる個人ロッカーの写真と、整頓のポイントを具体的に示した画像を掲示し、これをもとに生活委員会が中心となってロッカー内の整理整頓を実施した。

こんな成果がありました！

　見本となる画像のようにロッカーを使う生徒が増えました。特に、多くの生徒が机の横にかけていた体育館履きをロッカーに入れるようになり、教室内の空間も広がりました。

| 実践例　１２ | 整理整頓しやすい環境づくり　④　　小学校 |
|---|---|

【目的】
　学習用具をどこに置けばよいかなど、分かりやすくする。
【解説】
　机の中に置く物の整理は難しく、分かりやすく提示する必要があったため、絵や写真で示して視覚的にモデルを示し、整理しやすくした。

こんな成果がありました！

　机の中に入れるものの整理は難しいのですが、分かりやすく提示したことで整理が定着しました。

**【特別支援教育の視点から】**
　片付けをするのが苦手な児童生徒、多くのものをどのように分類し、どのように整理すればよいのかが分からない児童生徒にとっては、片付けるためのモデルとなります。

| 実践例　１３ | 整理整頓しやすい環境づくり　⑤　小学校 |
|---|---|

【目的】
　トイレのサンダルをきちんと揃えて置く。
【解説】
　トイレ入口に、ビニールテープでサンダルを置く場所を示す。

こんな成果がありました！

　低学年でもサンダルを左右揃えてきちんと置けるようになり、トイレ入口、サンダルともに汚れなくなりました。

| 実践例　１４ | 整理整頓しやすい環境づくり　⑥　中学校 |
|---|---|

【目的】
　自分の場所を分かりやすくし、整理して正しく置けるようにする。
【解説】
　クラス別に色で区別し、今まで縦に番号を並べていたのをクラス横一列にして、縦は、どのクラスも同じ番号になるようにした。また、下駄箱の上に、上履きと下履きの場所が分かるように写真を掲示した。

こんな成果がありました！

　自分の場所が分かりやすく、置き方も分かりやすいのでしっかり置けるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　視覚的に分かりやすく、目に入りやすいため、気が散りやすく行動コントロールの苦手な児童生徒にとっても、きちんと置くための手がかりになります。また、指示がなくてもできる環境をつくることで、教員がほめる機会が増え、正しい行動が身に付きやすくなります。また、乱雑な環境は、刺激となり、衝動性の高い児童生徒や刺激に敏感な児童生徒にとって落ち着かない環境になるため、落ち着いて過ごせるようにするための支援になっています。

| 実践例　１５ | 準備・片付けがしやすくなる工夫　①　小学校 |
|---|---|

【目的】

体育館の跳び箱の準備・片付けをスムーズに行えるようにする。

【解説】

跳び箱を所定の位置の壁に、写真で正しい跳び箱の置き方を示す。また、跳び箱の横に大きなイラストを描き、跳び箱の段組みをしやすくしている。

こんな成果がありました！

配置や組立てを分かりやすくしたことで、素早くスムーズに準備や片付けができるようになりました。

| 実践例　１６ | 準備・片付けがしやすくなる工夫　②　幼稚園 |
|---|---|

【目的】

クラス全員に何をどこに片付けるかを周知する。

【解説】

ままごとや砂場の道具等クラス全体で使うものはどこに何を入れるのかを写真にしてカゴに貼り付けている。ままごとではお盆、食べ物、お鍋、食器、調理器具等、それぞれのかごを用意して棚に入れられるようにしている。

こんな成果がありました！

教員が「お片付けしよう！」というと、カゴについている写真を見て自分たちで分けて片付けています。また、分類、整理することが自然に身に付いています。次に使うときにも分かりやすく、遊びも広がりやすくなりました。自分たちで片付けられるので、指示でなく、ご苦労さま、ありがとうなどの肯定的な声かけが増えました。

**【特別支援教育の視点から】**

片付けが苦手な児童、順序立てて物事に取り組むのが苦手な児童生徒にとっては、手順や片付け方が明確なので、片付けがしやすくなります。

| 実践例　１７ | 刺激の少ない教室環境　小学校 |
|---|---|

① 職員会議提案資料

**【　教室の黒板の使い方・掲示物について　】**

特別支援教育部

ユニバーサルデザイン化された授業を目指し、黒板の使い方の共通理解を図りたいと思います。教室の掲示物やメイン黒板周辺をシンプルにし、余計な刺激が目に入らないようにすることを意識した教室作りをしてください。

・黒板の中には日付・新出漢字などを入れない。
・黒板の上の部分には、学校教育目標と学年目標のみとする。
・日付用の小黒板は、後日、配布されます。
・学級目標などは、各クラスの教室配置の実態に応じて掲示する。

（例）

②

【目的】

黒板周辺に余計な掲示物等を減らし、余計な刺激が入らないようにする。

【解説】

①教室前面に学校教育目標・学年目標のみと、日付は黒板の外枠に小黒板を設置した。特別支援教育部から職員会議に提案し、学校全体の取組とした。

②黒板以外の情報を遮断するため、前面の掲示板にカーテンを取り付け、授業中は遮断するようにした。黒板の上の掲示物は最小限にとどめた。

こんな成果がありました！

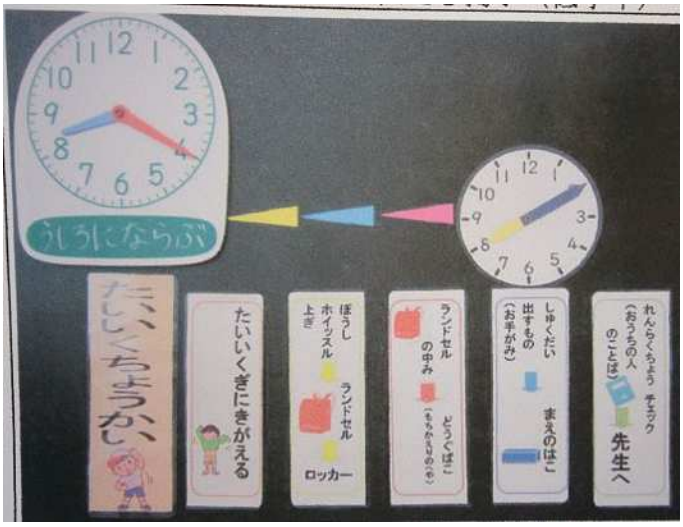
学校全体で共有化したために、教室前面がとてもシンプルになりました。そのため、集中して学習する雰囲気が出てきました。

使える黒板の範囲が広がり、板書が構造化されるようになりました。そのため一時間の授業の流れが板書でよく分かるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

刺激に敏感な児童生徒にとっては、余計な情報が遮断されるので、集中しやすくなります。また、多くの情報の中から必要な情報を選択することが苦手な児童生徒にとっては、必要な情報のみをピックアップしやすい環境です。

| 実践例　１８ | 朝の支度を自分たちでスムーズに　①　小学校 |
|---|---|




【目的】
　毎朝の活動の手順と行事、取組などを知らせる。
【解説】
　提出物や片付けの表示は毎日同じで朝の活動内容が朝会や朝読書、パワーアップタイムなどと組み合わせて掲示する。目安の時刻を表示する。毎日の帰りの会以降に係の児童が掲示して帰る。
　他のカードには、本の用意、プールカードを出す、外で遊ぶ、朝読書、朝会、パワーアップタイムがある。

こんな成果がありました！

　自分たちで黒板を見て、自分たちで確認し、活動できるようになりました。時計と組み合わせることで、より具体的な行動目標をもてるようになりました。学年全学級で取り組んでいるので、学年の動きもスムーズです。

| 実践例　１９ | 朝の支度を自分たちでスムーズに　②　小学校 |
|---|---|

【目的】
　教員がいない時間でも、朝登校したら自分たちで決まった場所に提出できるようにする。
【解説】
　提出物の提出場所を１カ所に固定し、種類ごとに色分けして分かりやすく表示した。

こんな成果がありました！

　提出物の提出場所を明示することによって、朝の支度がスムーズに行えるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　視覚的に分かりやすく、目に入りやすいため、見通しをもって行動しやすくなります。やるべきこととやりたいことの優先順位をつけるのが苦手な児童生徒にとっても、どのような行動をしたらよいのかが明確になり、行動しやすくなります。また、指示がなくてもできる環境をつくることで、教員がほめる機会が増え、正しい行動が身に付きやすくなります。

| 実践例　２０ | 手順を具体化して、しっかり清掃　①　中学校 |
|---|---|

【目的】
「清掃をしっかりやる」の「しっかり」を具体的にする。
【解説】
美化委員が中心となり、清掃の手順を各清掃場所へ掲示して、全体で共有する。

こんな成果がありました！

何をすればよいのかが明確になり、清掃がしっかりできるようになりました。

| 実践例　２１ | 手順を具体化して、しっかり清掃　②　中学校 |
|---|---|

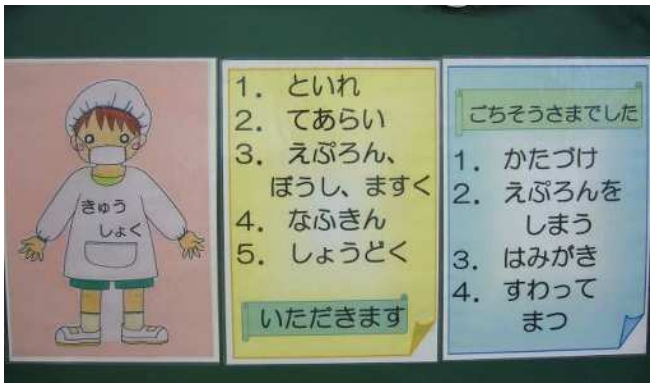
【目的】
どの学年でも同じような手順で清掃ができるようにし、時間の短縮と指導の明確化を図る。また、用具の位置を具体的に提示することで、当番生徒が替わっても整理整頓が簡単にできる。
【解説】
清掃の手順を分けて、写真でいくつかのカットに撮り、１つのセットにした。ラミネーターを利用し、角をリングでとめ、清掃時に水で濡れても問題のないように工夫した。全てのトイレに設置した。

こんな成果がありました！

１０分という朝の短い時間の中で大変効率的に行うことができています。また、どの学年でも同じような手順で清掃ができるため、教員や清掃担当が変わってもスムーズに取り組めています。

**【特別支援教育の視点から】**
抽象的な思考が苦手である児童生徒にとっては、具体的な提示があることで、活動しやすくなります。また、手順が分からない児童生徒にとっても活動をしやすい支援です。

| 実践例　２２ | 給食の手順を具体的に　小学校 |
|---|---|




【目的】
　給食の準備の手順が分かる、次の見通しをもたせる。
【解説】
　給食の準備は、手順が分かるとスムーズに運ぶ。そのため、次に行うことが分かるようにした。

こんな成果がありました！

　活動の手順を明確化することで、何をすればよいかが分かりやすく、全員が取り組みやすくなりました。

| 事例　２３ | 給食のルールや進め方の統一　中学校 |
|---|---|

【目的】
　学年で同じような生活環境をつくり、落ち着いて生活できるようにする。
【解説】
　給食の時間のルールや進め方、配膳のポイント、仕事分担について学年が同じものになるようにするため、給食についての掲示と働きかけを行う。

こんな成果がありました！

　学年で共通理解のもとに取り組めるので、落ち着いて生活できています。

**【特別支援教育の視点から】**
　活動の手順を忘れてしまったり、段取りが上手くいかなかったりする児童生徒にとっては有効な支援です。また、クラスが変わっても、学年が変わっても同じルールでできることは、新しいことに慣れるのに時間がかかる児童生徒も安心して活動に参加できます。

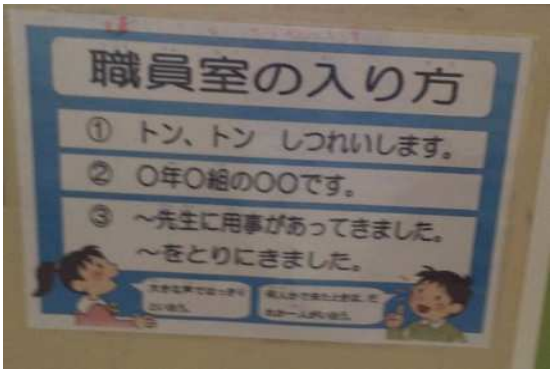
| 事例　２４ | 自分で行動できるための工夫　①【清掃】中学校特別支援学級 |
|---|---|

【目的】
　清掃活動が自分たちでスムーズに行うことができるようにする。
【解説】
　教室の床に番号をふったり、ごみを集める場所を赤枠で囲んだりするなどして、視覚的に示し、活動をしやすくする。

こんな成果がありました！

　自分たちから進んで動き、自分の役割を果たせるようになりました。

| 実践例　２５ | 自分で行動できるための工夫　②【職員室の入り方】小学校 |
|---|---|




【目的】
　児童が職員室に入るときの所作やあいさつを安心して正しくスムーズに行えるようにする。
【解説】
　職員室のドアに、箇条書きで職員室に入る際に行うことを明記する。簡潔に見やすく示す。

こんな成果がありました！

　職員室に来る児童に、行うことを分かりやすく示したことで、あいさつ、用件をしっかり言える児童が増えました。

**【特別支援教育の視点から】**
　やり方を忘れやすかったり、話すのに自信がなかったり、順序立てて物事を行うことが苦手な児童生徒にとって、視覚的に提示することで、自分から活動しやすい環境になっています。自分で確認して行動できるため、教員の注意や言語指示が減り、自分でできたことをほめる機会が増えます。

| 実践例　２６ | 見通しをもった生活をするために　① | 中学校 |
|---|---|---|

①

②

【目的】

見通しをもって生活できるようにする。

【解説】

①２日間のスケジュールを、学級委員が学年の連絡ボードから書き写し、朝・帰りの会で読み上げ、クラスの所定の場所へ掲示する。

②一週間の予定表が毎週配付される。翌日の持ち物、提出物を記入。目標を立て、自己評価を行う。

こんな成果がありました！

いつ、どこで、何があるかの確認が自分ででき、忘れ物の対策になっています。また、児童生徒が自分から予定を確認できるようになりました。

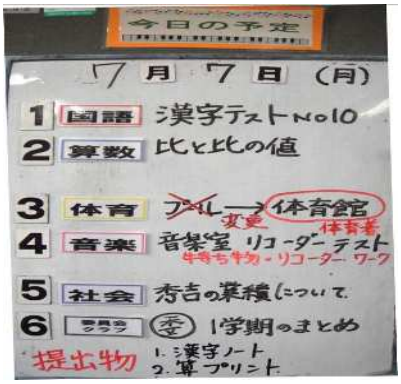
| 実践例　２７ | 見通しをもった生活をするために　② | 小学校 |
|---|---|---|

【目的】

一日の掲示をすることで見通しをもって生活できるようにする。

【解説】

朝の会で一日のスケジュールを確認するとともに変更点を具体的に知らせる。教室に掲示し、変更する場合はその箇所に変更が分かるようにする。



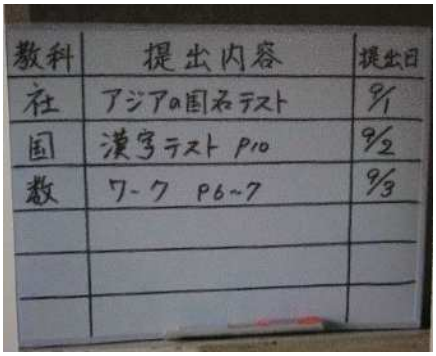

こんな成果がありました！

次にやることが明確なので、進んで行動できるようになり、チャイムとともに授業が始められるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

見通しがないと不安になってしまう児童生徒や、計画を立てて物事に取り組むことが苦手な児童生徒にとっては、見通しをもつための手がかりになっています。

| 実践例　２８ | 先を見通すために　中学校 |
|---|---|




【目的】

見通しをもって宿題に取り組み、期日に提出することができるようにする。

【解説】

学級のホワイトボードに各教科担当が提出日を書いておく。

こんな成果がありました！

提出日を考えて余裕をもって自ら家庭学習に取り組めるようになりました。教員も、他教科とバランスを取って課題を提出できるようになり、生徒の負担も減りました。

| 事例　２９ | 分かりやすい朝のショートホームルームの連絡　高等学校 |
|---|---|

【目的】

各学級間で同じ連絡を徹底し、生徒が何度も確認できるようにする。

【解説】

日程、提出物、配付物、注意事項など、学年で生徒に周知したい内容についてもれなく伝えることができ、黒板に貼っておくことで、生徒がいつでも確認できる。

| （9／2）　朝の SHR 連絡事項 |
|---|
| ・体育委員会: 本日 13 時、場所:体育館 |
| ・進路希望調査提出：９／５（金）朝 SHR |
| ・明日９／３（水）課題テスト１～３限 |
| ・ |

こんな成果がありました！

口頭だけでは、瞬時に自分に必要な情報かどうか判断できない生徒もいるため、掲示しておくことで生徒自身が何度も確認でき、伝達の漏れを防ぐことができています。

**【特別支援教育の視点から】**

忘れてしまいやすい児童生徒、計画的に物事に取り組むことが苦手な児童生徒にとって、見通しをもち、忘れないようにするための手がかりになります。また、聞くことが苦手で聴覚的な情報のみでは記憶することが苦手な児童生徒、一度に多くの情報を処理することが苦手な児童生徒にとっては、必要な情報を確認するための手がかりになります。

| 実践例　３０ | 分かりやすい宿泊行事のしおり　小学校 |
|---|---|

| 時刻 | 活動内容 | | 場所 |
|---|---|---|---|
| ６：40<br>６：45<br>７：00 | 学校集合<br>出発のつどい<br>学校出発 | | ピロティ<br><br>階段下 |
| | トイレ休憩①<br>トイレ休憩② | | 佐野 SA<br>道の駅湯の香しおばら |
| 11：30 | 自然の家到着<br>写真撮影<br>入館 | | 駐車場<br>入口付近<br>エントランスホール |
| 12：00 | 入所式 | | 体育館 |
| 12：40 | 昼食 | | 食堂 |
| １：30 | 入室・荷物整理 | | 各部屋 |

【目的】

宿泊行事に行くのに当たり、日程を明確にし、自分たちで行動できるようにする。

【解説】

宿泊行事に特別支援学級の児童も参加することから、主な活動をイラストにして分かるようにした。さらに、イラストをシールにして自分たちで貼るようにした。

こんな成果がありました！

自覚をもって、自分たちで行動する姿が見られました。

**【特別支援教育の視点から】**

文字を読むことが苦手な児童も、視覚的に一目で分かって行動できます。見通しがないと不安な児童にとっては、シールを貼って日程を事前に確認することで安心して行事に参加できます。また、日程が明確で、事前に知っておくことで児童が自分から行動することができ、ほめる機会をつくることがきます。

| 実践例　３１ | 公共交通機関を利用するときのマナーをサイレントサインで　小学校 |
|---|---|

【目的】

校外学習での移動に公共交通機関を利用するとき、教員が言葉かけをせずに、かつ安全に移動することができるようにする。

【解説】

スケッチブックに主な活動やマナーをイラストと文で示し、校外学習で指示が必要な時、無言で提示した。

こんな成果がありました！

教員が言葉かけせずに、見せるだけで静かに行動することができました。

**【特別支援教育の視点から】**

言語指示のみでは聞き落とす児童も、視覚的に指示が残ることで指示に従いやすくなります。また、言語指示をしないで済むことで、公共交通機関では静かにというマナーのモデルになります。

| 事例　３２ | 主体的に行事に参加するための工夫　小学校 |
|---|---|

【目的】

見通しをもって、主体的に行事に参加できるようにする。

【解説】

低・中・高学年用の行事の活動計画表を作成し、各学年で児童の実態に合わせて活用する。行事に向けた活動計画、目当て、目当ての評価を行う。

こんな成果がありました！

活動の見通しをもつことができ、自分で振り返りを書き込めるため、主体的に取り組む児童が増えました。

**【特別支援教育の視点から】**

見通しをもつことが苦手な児童や、集中が続かない児童にとっては、見通しをもち、何をがんばればよいのか明確になるため、意欲を持続できます。また、目当てに対する評価もあるため、自分の行動を振り返ることもできます。

| 実践例　３３ | 落ち着いて健康診断を受けるために　小学校 |
|---|---|

【目的】

初めて心臓検診を受ける児童生徒が安心して受けることができるようにする。

【解説】

心臓検診の手順と内容をイラスト入りで作成し、事前指導を行った。

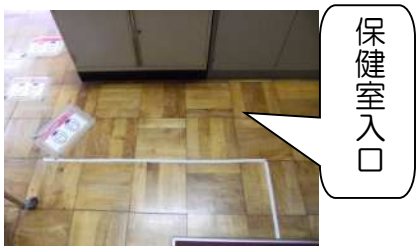
こんな成果がありました！

落ち着いて検診を受けることができました。

**【特別支援教育の視点から】**

初めてのことに対して不安が強い児童生徒は、事前に手順や内容を伝えておくことで、イメージ化ができ、安心して取り組むことができます。

| 実践例　３４ | 健康診断をスムーズに受診するための環境づくり　小学校 |
|---|---|




【目的】

教師の指示がなくても、児童が自ら動き、スムーズに健康診断を受けられるようにする。

【解説】

保健室の入口、出口の表示を明確にし、一方通行にする。児童の動線が分かるように、赤いビニールテープで示したり、足型の表示をして順番に待てるようにした。足型は５０ｃｍ程度が、離れすぎず、接触してふざけ合いになったりしない間隔であった。また、待っている場所に掲示物を貼ることで、それを眺めながら待てるようにした。

内科検診ではついたてを使い、児童が安心して受けられるようにした。

こんな成果がありました！

動線を示したり、足型をつけたりすることで、教員が指示を出さなくても整然と検診を進めることができました。児童だけでなく、付き添っている担任も迷うことなく、児童に最低限の指示を出すだけで検診を行うことができました。

**【特別支援教育の視点から】**

検診は、見通しがもちにくいため、並んでいられず、おしゃべりをしたり、ふざけ合いになったりすることがたびたびあります。落ち着きがなく待つのが苦手な児童にとっては、足型があることは、順番を守り、見通しをもつための手がかりになります。また、視覚的に動きが明確になっているため、自分から動くことができ、言語指示が最小限で済む環境になっています。

| 実践例　３５ | 持ち帰るものを忘れずに　小学校 |
|---|---|

【目的】

分かりやすい指示をすることで、忘れないようにする。

【解説】

持ち帰るものを、帰りの会の時に黒板に貼って確認します。

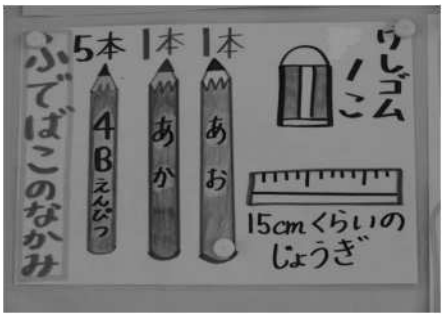
こんな成果がありました！

言葉だけでは理解不十分な児童でも目で確認できるので、声かけなしでも行動できるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

不注意な児童生徒は、言語指示のみでは聞き逃してしまうことがあるので、見て確認できる手がかりがあると忘れずに活動できます。

| 実践例　３６ | 持ち物のルールを確認するための工夫　小学校 |
|---|---|



【目的】

児童が、忘れ物をせず学習準備が整えられるようにする。

【解説】

筆箱の中、音楽バッグの中に何を入れておけばよいのか明示した。

こんな成果がありました！

学習に不要なものを持ってこなくなりました。専科の授業に必要なものを忘れずに持っていくことができるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

抽象的な表現を理解することや暗黙の了解が苦手な児童生徒にとって、具体的な情報提示は分かりやすい指示になります。また、忘れてしまいやすい児童生徒にとっても、視覚的に残るため、確認するための手がかりになります。

| 実践例　３７ | 自分たちで動くチャイム着席　中学校 |
|---|---|

【目的】

チャイム１分前にオルゴール音で校歌が流れて着席を促すことでチャイム着席が定着できるようにする。

【解説】

チャイム前の音楽で聴覚からチャイム着席を促し、教師はチャイム前に教室に行くことを共通行動として確認している。また、教室内の時計に、授業の始まりの時間にマークをつけて、視覚的に分かりやすくしている。

こんな成果がありました！

この工夫により、チャイム着席が徹底でき、落ち着いて授業を開始することができるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

切り替えが苦手な児童生徒にとって、チャイムが鳴る前に予告を示す音楽が流れることで、切り替えるための準備ができます。また、チャイムが鳴ったときには着席しているため、教員のほめる機会が増えることで、時間を守るという行動が定着していきます。

| 実践例　３８ | 声のものさし　小学校 |
|---|---|

【目的】

授業での伝え合いや発表において、声の大きさを考えながら話したり聞いたりすることができるようにする。

【解説】

隣同士やグループでの伝え合い、そしてクラス全体に発表する際などに、声の大きさをどの程度にすればよいか参考にする。その際は、動物に例えて「リスさんの声で伝えよう」などと助言する。また、聞くときは声の大きさ「０」を意識させる。

こんな成果がありました！

校内で統一されたものを教室前面に掲示することにより、声の大きさを意識できるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

行動のコントロールが苦手な児童生徒は声の大きさのコントロールも苦手なことが多くあります。機会があるごとに掲示物を使って確認することで、自分の声がどのくらいなのかをモニタリングし、行動を調整する力を付けることができるようになっていきます。また、聴覚過敏や聴覚情報の選択が苦手な児童にとっては、学級全体で声の大きさが意識されることで、安心して学べる環境になります。

| 実践例　３９ | モデルを示して正しい行動を　①【鉛筆の持ち方】　小学校 |
|---|---|

【目的】

一つ一つ、学習したことをいつでも再確認できるようにする。

【解説】

学習したことを、視覚化して提示することで、どの児童にとっても分かりやすく、いつでも再確認することができる。

こんな成果がありました！

モデル図を掲示して、やるべきことを明確化することで、どうすればよいかが分かりやすく、全員が取り組みやすくなりました。

| 実践例　４０ | モデルを示して正しい行動を　②【姿勢】　小学校 |
|---|---|

【目的】

姿勢を意識して授業に取り組むことができるようにする。

【解説】

視覚的な情報と聴覚的な情報の両方を入れた図を掲示し、授業の間に姿勢を正す時間を設けて姿勢を意識させる。

こんな成果がありました！

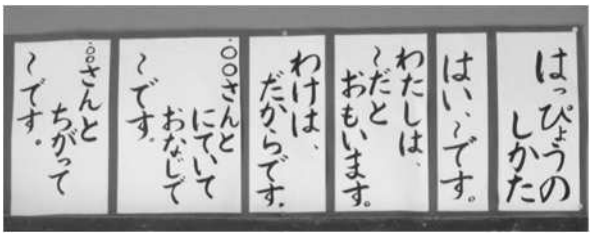
書く前に姿勢を正す活動を入れることで、字を丁寧に書くことができるようになった児童が増えました。

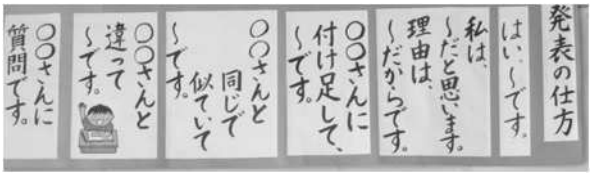
**【特別支援教育の視点から】**

書くことが苦手であったり、字が曲がってしまったり、まっすぐに書けなかったりすることの要因の中には、鉛筆の持ち方が悪くペン先が見えないために姿勢が悪くなってしまったり、姿勢が崩れているために筆圧が弱くなったりするということがあります。書く前などに鉛筆の持ち方や姿勢を正しくすることで、丁寧に書くことができるようになる児童生徒が増えます。

力加減が分からなかったり、よく友達にぶつかってしまったりする等、行動のコントロールの苦手な児童生徒は、ボディイメージが弱く、姿勢を維持できないことがあります。そのような児童生徒にとって、姿勢について時折意識を向けることは、自分の体がどうなっているかという気付きにつながります。

| 実践例　４１ | 発表の仕方のモデルを示す　小学校 |
|---|---|



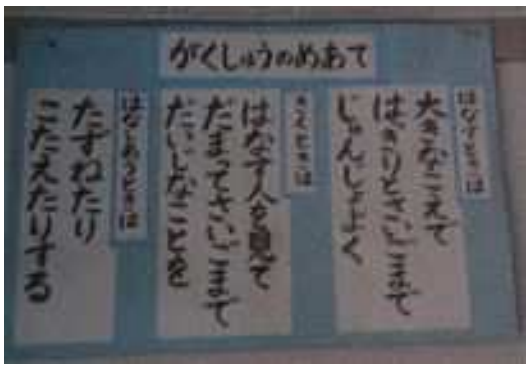

【目的】
　発表の仕方のモデルを示すことで、考えを整理して発表できるようにする。
【解説】
　低、中、高学年ごとに発達段階に応じてモデルを段階的に示し、掲示した。

こんな成果がありました！

　学級や学年による差が生じることなく、系統的に学習ができるようになりました。特に発表が苦手な児童にとっては、モデルがあり、抵抗が少なくなりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　積極的に発表しようとするが考えがまとまらずに話し続けてしまう児童生徒や発表することに自信のない児童生徒にとって、発表のモデルは、考えをまとめたり、自信をもって発表したりするための手がかりになります。

| 実践例　４２ | 学習姿勢のモデルを示す　小学校 |
|---|---|




【目的】
　「話す」「聞く」「話し合う」の約束を明確にする。
【解説】
　話すとき、聞くとき、話し合うときの大切なことを掲示し、常に確認できるようにする。

こんな成果がありました！

　掲示してあることで、確認しやすく、学習の規律が徹底し、授業をスムーズに進めることができます。

**【特別支援教育の視点から】**
　友達の発表の途中でついロを挟みたくなってしまう児童生徒にとって、見て確認できるため、行動をコントロールするための手がかりになります。また、掲示してあるため、教員が口頭で注意せずに指し示すことができるため、注意するために授業が途切れてしまうことも減ります。

| 実践例　４３ | 机の上は準備ＯＫ　小学校 |
|---|---|

【目的】
　机の上にあるものが一目で分かるようにする。
【解説】
　実物投影機で机の上を写し、準備する物やその物の置き方が一目で分かるようにする。例えば、算数の時間、教科書・ノート・筆箱・ブロックなどの置き方。あるいは、デジタル教材で、教科書の開くページを写し、一目で分かるようにする。

こんな成果がありました！

　細かい説明がなくても、机の上の準備をすることができるようになりました。机の上を整えようとする意識も出てきました。

**【特別支援教育の視点から】**
　段取りが苦手な児童生徒は、机の上に整理してものを置くことができなかったり、そのために物を落としてしまったり、ノートを教科書の上に乗せて書いたりしてしまいます。整理の仕方を示すことで、学習に参加しやすくなります。

| 実践例　４４ | いつまでやるのかを明確にする工夫　小学校 |
|---|---|

【目的】
　いつまでやるのかを明確にする。
【解説】
①入学当初は時計が読めない児童も多いため、活動の時間を指示するのに「数字の○まで」と指示する。
②タイマーを大型テレビに映して活用する。

①

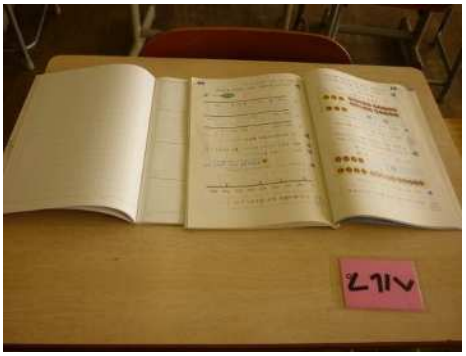
②

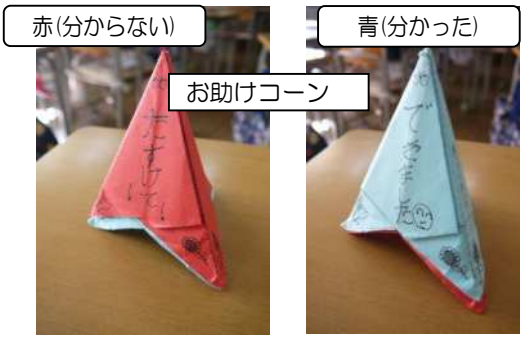
こんな成果がありました！

　目で確認できるので、声をかけなくても行動できるようになりました。また、残り時間が明確になることで、安心して活動に取り組めるようになりました。また、見通しをもって取り組めるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　いつまでやるのか見通しがないと不安になったり、集中が続かなかったりする児童生徒にとっては、安心でき、集中を切らさずに取り組むための支援になります。

| 実践例　４５ | 分からないことがあっても大丈夫　小学校 |
|---|---|






【目的】
　分からないことがあったときに支援や助言を求められるようにする。
【解説】
　分からないことがあり、支援が必要な時に、机上に提示する。提示した児童に対しては、教員や課題を早く終えた児童が助言する。静かに「できました」「助けてください」アピールをすることで、他の児童への配慮にもなる。

こんな成果がありました！

　意思表示が苦手な児童でもカードを使って助言を求めることができるようになりました。分からないことをそのままにしないで授業に参加できるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　意思表示の苦手な児童生徒にとっては、発信の手段となります。また、理解するのに時間がかかる児童生徒にとって、個別の支援を求める手立てとなっています。

| 実践例　４６ | 分からないことは相談しよう　中学校 |
|---|---|

【目的】
　授業内容に関する質問をしやすい環境づくりにより、生徒が分からないことを気軽に質問し、学習の理解を深める。
【解説】
　授業中に、質問できない生徒が気軽に利用できるよう、教員が対応しやすい職員室前に設置し、１０分休みや昼休み、放課後などを利用して質問に答えられるようにした。

こんな成果がありました！

　立ち話のような状態で質問に答えるのでなく、座って落ち着いた環境で質問に対応でき、理解を深める生徒が増えました。

**【特別支援教育の視点から】**
　引っ込み思案で多くの人の前では質問ができない児童生徒や１対１で具体的に説明してもらえると理解が深まる児童生徒にとって、質問しやすい環境になっています。

| 実践例　４７ | 指示の出し方、言葉かけの工夫 |
|---|---|

【目的】

言語による指示を理解しやすくする。

**【前置きして話す】**
これから〇つ話をします。
１つ目は～です。
２つ目は～です。

**【一文一動作】**
「～の次は～する」でなく、「１～。２～。３～」

**【肯定的な言葉かけ】**
「～できなかったら～しない。」でなく「～したら～しましょう。」

**【具体的な称賛】**
ほめるときは具体的に。「～がいいね」

**【言葉のイメージ化】**
例）静かに廊下を歩く時⇒「忍者になって廊下を歩きましょう」

**【具体的な指示】**
「あっち」「こっち」「たくさん」「すこし」「だいたい」「ちゃんと」でなく目的や終点、量や回数を明確に。

**【語調に変化を】**
声のトーン、抑揚、スピードの変化により強調する。

**【非言語的動作】**
アイコンタクト、OKサイン、動作やアクション

こんな成果がありました！

集中して話が聞けるようになりました。また、大切なことを聞きもらすことが減ってきています。

**【特別支援教育の視点から】**

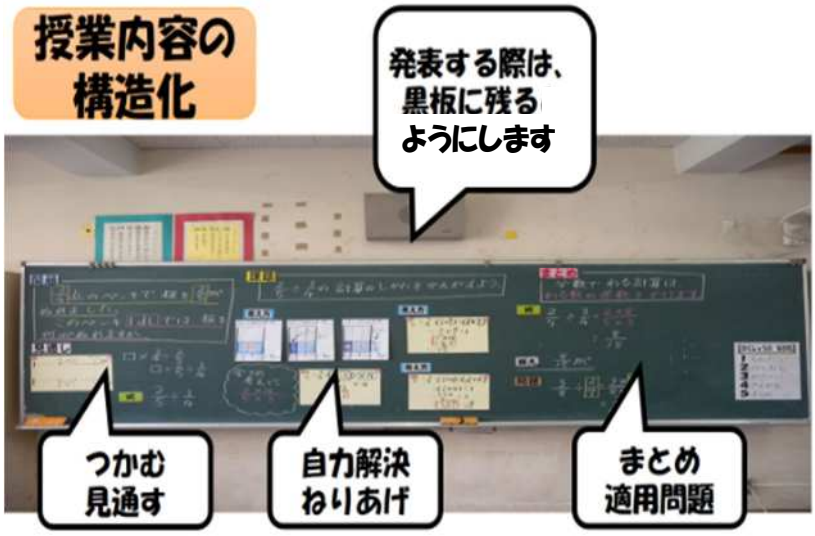
記憶することが苦手な児童生徒や注意を向けるのが苦手な児童生徒、複数の指示があると忘れてしまいがちな児童生徒は、一文一動作や前置きの指示があると、集中を高め記憶しやすくなります。

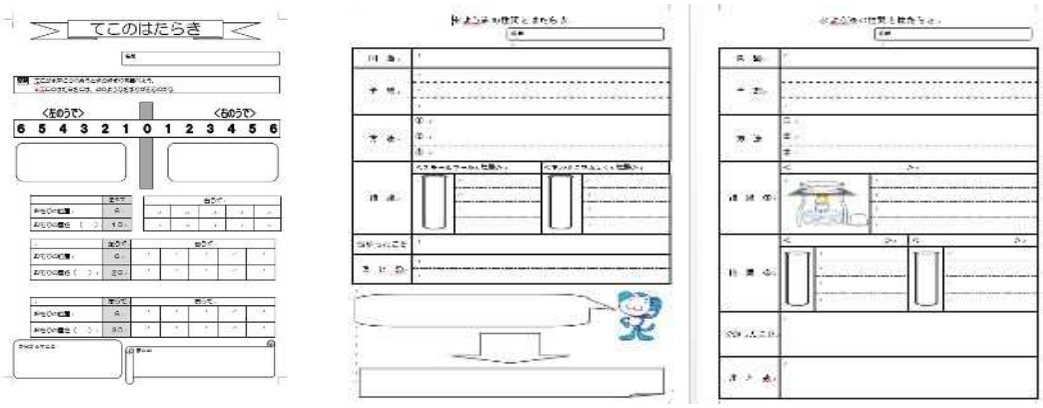
抽象的な言葉や暗黙の了解が苦手な児童生徒は、具体的な指示や言葉のイメージ化があると、指示を理解しやすくなります。

聴覚的な情報を整理するのが苦手で何が大切か分からない児童生徒や、集中するのが苦手な児童生徒は、語調に変化があると、大切なことを聞き取りやすくなります。

肯定的な言葉かけ、具体的な称賛は、失敗経験の多い児童生徒の意欲を持続させるための支援になります。

| 実践例　４８ | 授業の構造化【理科】　小学校 |
|---|---|




【目的】

時間の構造化を図り、先を見通せるようになり進んで学習に取り組めるようにするとともに、授業内容も構造化し、児童にとって分かりやすくする。

【解説】

理科の学習では、実験を行う際は必ずプリントを作成し、授業の中で何を行うのかを明確にした。何をしたらよいかを明確にすることで、学習内容を整理して取り組める。

板書の構造化を行った。１時間で行ったことが一目見て分かり、学習の振り返りも行うことができる。また、板書と同様に授業の内容をパターン化することで、『次は、これかな？』と予想しながら授業に取り組める。

こんな成果がありました！

児童がより意欲的に学習に取り組めるようになりました。また、クラス全体が決められた流れの中で考える時間を確保でき、自分の考えを安心して発言するようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

見通しがないと不安な児童生徒、どこまで頑張ればよいか分からないと集中が切れてしまう児童生徒にとっては見通しをもつための支援になります。

| 実践例　４９ | 授業の構成、板書の工夫【特別の教科　道徳】　小学校 |
|---|---|

【目的】

　児童が道徳の資料の主人公の心の動きや状況を捉えられるようにする。

【解説】

・テレビを用いた導入で映像により興味関心を高める。
・紙芝居による資料わたしで、場面の様子や登場人物の心の動きを捉えやすくする。
・主人公の動きの動作化で、主人公により深く共感する。
・書く活動により自らの考えを深める。

【目的】

　児童が道徳の授業で、主人公の心の動きを視覚的に捉えられるようにする。

【解説】

・登場人物、状況の提示
・場面絵やキーワードの提示
・主人公が葛藤する場面を黒板の中央で、右半分を青、左半分を赤でハートを描いて視覚的に表現。迷った末に決心した考えを⇒と黄色で描き協調し印象付ける。

こんな成果がありました！

　見る、聞く、話す、動く、書くと様々な学習活動に取り組むことにより児童が主体的に学習に取り組むようになりました。

　板書の工夫により、どの児童も主人公の心の動きを捉えることができました。

**【特別支援教育の視点から】**

　人の気持ちを考えることが苦手な児童生徒、抽象的な思考が苦手な児童生徒にとって、動作化したり、見えないことを視覚化したりすると、理解しやすくなります。

| 実践例　５０ | 話合いの流れが見える板書と共有化の場の工夫<br>【特別活動「学級会」】小学校 |
|---|---|

小学校

空いている場で実演し共有する

役割・時計等グッズ

３段階討議法の話型

【目的】

児童一人ひとりが、自信をもって積極的に話合いに参加できるようにする。

【解説】

- 意見カードを３色用意し、児童の意見を整理したり、分類したりできるようにする。
- 「出し合う⇒分かりあう⇒まとめる」の札を用意し、どこの部分の話合いをしているのかを分かるようにする。
- 児童が話し合いやすいように椅子で半円を作り、空いている場で実演し、意見を共有できるようにする。
- 話合いの時間配分が全員に分かるように柱ごとに始まりの時間を掲示する。

こんな成果がありました！

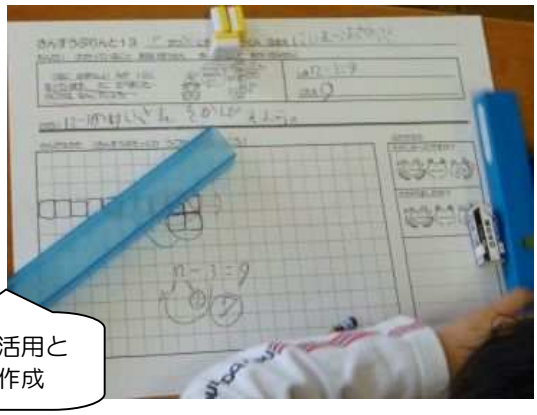
話合いの流れが見えたり、意見を共有したりすることにより、一人ひとりが安心して自分の思いや考えを伝えることができました。また、友達の意見も大切にしながら、決められた時間の中で話し合うことができました。

**【特別支援教育の視点から】**

言葉のみでは理解が難しい児童生徒にとっては、色分けされたり、目印があったりすることで理解しやすくなります。また、意見を言うのが苦手な児童にとっても、モデルやカードがあることで、自分の意見を整理しやすくなり、活動に主体的に参加できるようになります。

| 実践例　５１ | 導入の工夫と児童の考えが見えるワークシートの工夫<br>【算数】　小学校 |
|---|---|

習熟で行うゲーム



ワークシートの活用と
ブロック図の作成

【目的】

児童の興味・関心を引き、意欲をもって課題解決に取り組めるようにする。

【解説】

・単元全体にストーリー性をもたせ、１時間の学習が終わるごとにアイテムをゲットし、次の冒険へと進むようにするなど、意欲を持続できるようにした。

・ブロック操作だと、途中の動かし方が見えないので、ブロック図を作成し、見ただけで全員がブロックの動きが分かるようにした。１回目の操作（赤）→２回目の操作（青）→

・算数で使用するワークシートは同じ形式にし、問題、課題等の短冊も毎時間使用した。

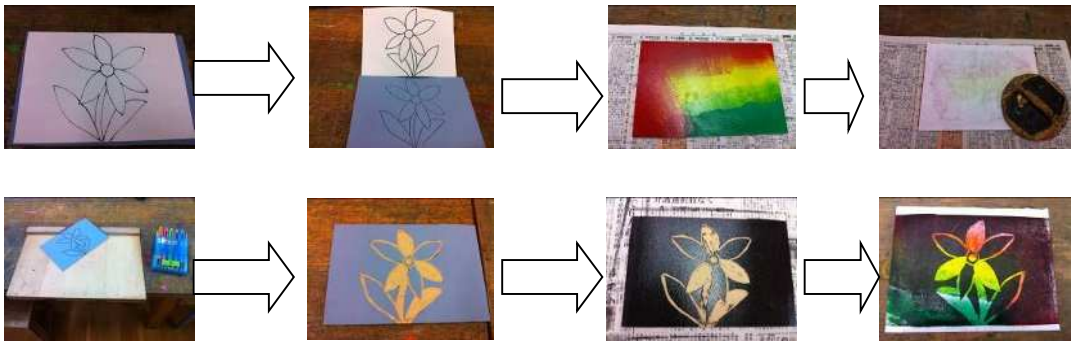
こんな成果がありました！

単元を通し、児童が大変意欲的に課題解決に取り組むことができました。ブロック図により児童のブロック操作の過程が見えるようになったので、より深く練り上げができました。

**【特別支援教育の視点から】**

思考過程が見えることにより、多様な思考が苦手な児童生徒も思考を広げることができます。また、興味・関心により取組にむらが出てしまう児童生徒にとって、導入の工夫や意欲を持続するための工夫は、授業に主体的に参加するための支援になります。

| 実践例　５２ | 作業の流れを分かりやすく【図画工作】小学校 |
|---|---|



【目的】

図画工作の多色刷りの授業でやり方の手順を、写真で示すことで作業に安心して取り組むことができるようにする。

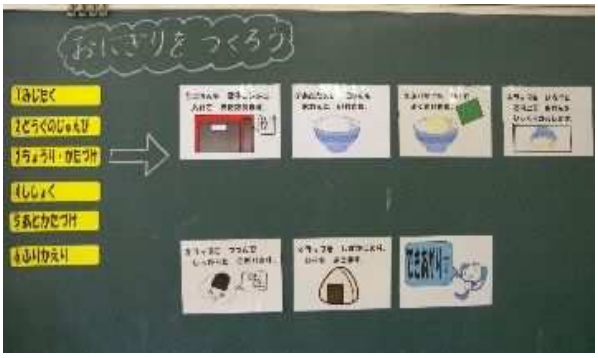
【解説】

多色刷りの版画の説明は口頭で話しただけではなかなか理解できないので、手順を一つ一つ写真で説明したあと、掲示しておく。

こんな成果がありました！

個人個人で質問に来ることもなく、黒板に掲示してある写真を見ながら作業に取り組むことができました。

| 実践例　５３ | 活動の手順を理解して活動しよう【家庭科】　小学校 |
|---|---|




【目的】

時間の構造化を図り、本時の課題が目で見て分かるようにした。

【解説】

家庭科の調理実習をする際の順番と実際に調理をする際の手順を文字や絵にして、分からなくなった時に見ながら取り組めるようにした。

こんな成果がありました！

自分が今何をするべきかが明確になり、作業途中の質問が、ほぼなくなりました。また、視覚的手がかりを使うことで作業に自分自身の力で、自信をもって取り組めるようになってきました。

**【特別支援教育の視点から】**

言葉で説明しても分からない児童生徒、段取りが分からなくなってしまう児童生徒、手順を忘れてしまう児童生徒等にとって、手順が視覚化され残っていることで、失敗することなく、自信をもって活動に取り組むことができます。

| 実践例　５４ | 学び合おう【ペア・グループ学習】　小学校 |
|---|---|

【目的】

自分の考えを少人数で伝え合う活動を行うことで、自信をもって表現できるようにする。

【解説】

・座席の隣同士で自分の考えを伝え合う場面を設けた。

・グループ学習は、メンバー構成を意図的に決め、役割を決めて活動した。話し合うべき内容が明確でないと進まないため、テーマを決めて発言したり、役割に沿って発表したりする等の工夫が必要である。

こんな成果がありました！

低学年でも書いたものを見せながら発表したり、それに対する意見を述べたりできるようになりました。グループ学習は人数も少なく、全体で行うより発言しやすくなりました。

**【特別支援教育の視点から】**

少人数であれば発表の苦手な児童生徒も自信をもって伝えることができます。また、全員に発表する機会をつくることができるので、集中の苦手な児童生徒も活動に参加する機会ができ、集中の持続を図ることができます。さらに、考えを共有することで、考えを広げることができます。

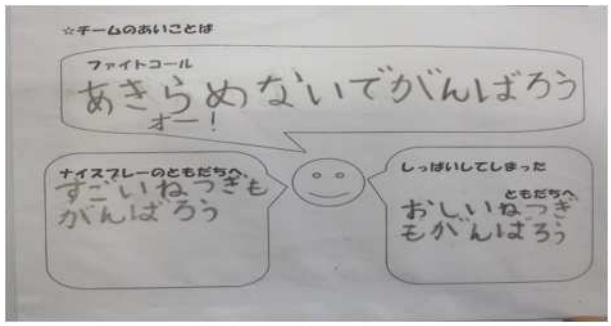
| 実践例　５５ | 意欲を高める言葉かけ　【体育】　小学校 |
|---|---|

【目的】

励まし合いながら、意欲的に授業に取り組めるようにする。

【解説】

チームで、ファイトコール、ナイスプレーの友達へ、失敗してしまった友達への合言葉を考えカードに書き、声をかけ合う。




こんな成果がありました！

お互いの動きを認め合ったり、励まし合ったりできるようになりました。そのため、意欲的に活動できるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

失敗した友達を攻撃したり、負けることを嫌がったり等、感情のコントロールが苦手な児童生徒にとって、モデルの言葉かけを考えることは、コントロールするための手がかりになります。また、表現の苦手な児童生徒にとって、どのような言葉をかければよいかのモデルになります。

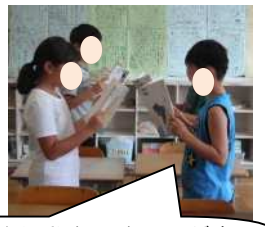
| 実践例　５６ | 体験的な活動で理解を深める【国語】　小学校 |
|---|---|

【目的】
体を動かしながら俳句や短歌のリズムを感じて読む。
【解説】
一度俳句や短歌の切れ目で区切ったあと（個の学習）、一斉（ペア学習）に体を動かしながら俳句や短歌のリズムを感じて読む。
（俳句の場合）

①全員立って、「初めの五」を読む。

②「次の七」で、隣同士背を向けるように９０度動く。

③「次の五」でも、９０度動く。



④作者名を読んで、また動き、隣同士が向き合えば成功。

こんな成果がありました！

体を動かすことで授業にメリハリができました。また、体を向き合わせることでゴールになるので、達成できたか児童も教員も把握することができました。

| 実践例　５７ | 授業の中に様々な活動を取り入れる【理科】　小学校 |
|---|---|

【目的】
人体模型や視聴覚教材などを活用しながら直接的な体験と間接的な体験を組み合わせ、より学習の理解を深める。
【解説】
この単元では、自分の体を使って調べることに重点を置いているが、筋肉も未発達の児童では、直接的に触れてみる等の体験活動だけで、体の動くしくみを十分に理解することは難しいので、間接的な体験も取り入れた。

①自分の体を触って実験

②具体物を活用して実験

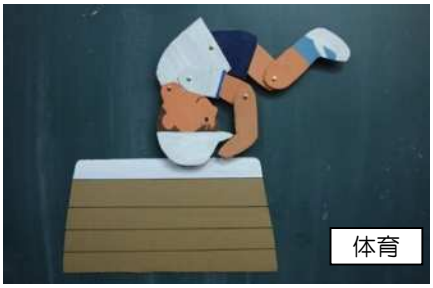
③視聴覚教材の活用

こんな成果がありました！

様々な形の体験的活動を取り入れたことで、より理解を深めることができました。

**【特別支援教育の視点から】**
様々な認知特性のある児童生徒でも、体験的な活動を取り入れることで、理解を深めることができます。また、集中が途切れやすい児童生徒は、体を動かす活動があることで、授業にメリハリができ、集中が持続しやすくなります。

| 実践例　５８ | 半具体物を用いた授業の工夫【算数】【体育】　小学校 |
|---|---|




【目的】

視覚的な情報を提示し、理解を図る。

【解説】

算数や理科では、具体物や半具体物を使った操作を多く取り入れ、理解を深めるようにした。特に、算数ではクッキーやピザなどの半具体物を利用して、わり算や分数の授業を行った。

体育では関節が動く人形を使い、台上前転のポイントなどを学習した。

こんな成果がありました！

教科書や言葉だけでは伝わらなかったことが伝わりやすくなりました。

**【特別支援教育の視点から】**

抽象的な思考が苦手であったり、言葉だけではイメージできなかったりする児童生徒が理解しやすくなります。また、見本を見ただけでは理解できず、一つ一つ分解して理解していくタイプの児童生徒にとっては、人形で技の構造を理解することで動きにつなげていくことができるようになります。

| 実践例　５９ | 文章構成を視覚化する【国語】　小学校 |
|---|---|

【目的】

国語の説明文の単元で、文章の構造を理解しやすくする。

【解説】

各段落の内容ごとに枠の色分けをし、文章の構成について大きく掲示することによって視覚的に印象に残るように配慮した。

こんな成果がありました！

文章の構成を視覚ではっきりと認識することができ、二つの教材で文章構成を比較することもできました。普段プリントなどでは興味をもって取り組めない児童も黒板に惹きつけることができました。

**【特別支援教育の視点から】**

視覚的に提示することで、言葉だけで理解することが苦手な児童生徒も理解しやすくなります。

| 実践例　６０ | 活動の流れの視覚化【グローバル・スタディ】　小学校 |
|---|---|

【目的】
　コミュニケーション活動の流れをピクチャーカードで常設掲示することで、児童が見通しをもって活動できるようにする。
【解説】
　活動前に、ピクチャーカードで流れを確認したり、活動中につまずきのある児童がいた場合に確認を促したりする。ピクチャーカードを並べ替えたり付け加えたりすることで、活動に合った流れにアレンジできる。

こんな成果がありました！

　活動の流れをいつでも確認できるので、児童はスムーズにコミュニケーション活動に取り組むことができました。

| 実践例　６１ | 構音の可視化・動作化【グローバル・スタディ】　小学校 |
|---|---|

【目的】
　英語の発音の違いについて、舌の位置を視覚的に提示し、さらに動作化を取り入れることで、発音の理解につなげる。
【解説】
　発音の際、口の中の様子や舌の位置を、教師が手袋を使って提示し、児童も真似をする。ALT による発音と組み合わせることで、効果が高まる。

こんな成果がありました！

　耳（ALT の発音）と目（手袋の活用）で発音の仕方を理解すると、声に出して意欲的に発音する児童が多くなりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　耳からの情報だけでは理解が難しい児童にとって、視覚的な情報は学習理解を支援する上で効果的な方法です。活動内容を明確にすることで、児童は自信をもって活動できるので、学習意欲の向上につながります。

| 実践例　６２ | ＩＣＴを活用した授業　①【英語】　高等学校 |
|---|---|

【目的】

口頭での説明を書き取れない生徒も理解を深められるようにする。

［解説］

本文の全てと、説明のほとんどをスライドとアニメーションで投影して授業を進める。書き取れなかった部分に関しては後から全く同じスライドを見せてもらうことができる。

こんな成果がありました！

全ての本文を投影するので、今、どの文の学習をしているのかが分からない生徒はほとんどいなくなりました。また、簡単に前のスライドに戻ることができるため、板書を写すことを焦らずに済むことができます。欠席しても同じスライドを見て学習することができます。

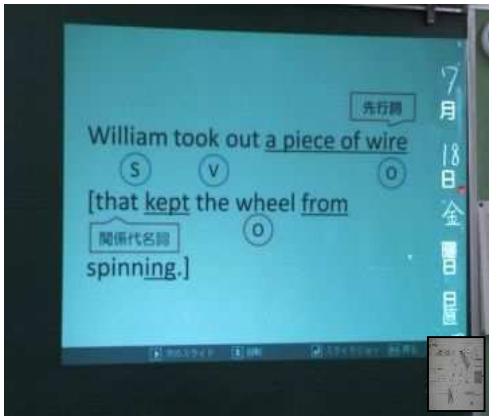
| 実践例　６３ | ＩＣＴを活用した授業　②【英語】　高等学校 |
|---|---|

【目的】

聞く活動、書く活動にメリハリをつける。一目で重要なポイントを理解できるようにする。

【解説】

単元の中でポイントとなる文構造の解説でプロジェクターを使用する（1 時間に３～４枚）。記号や矢印、色分け等をし、一目で視覚的に重要なポイントをおさえることができる。板書の時間を短縮し、聞く・書く時間をはっきりさせることで、ワークシートへの書き込みも十分な時間を確保できる。




こんな成果がありました！

授業の流れをパターン化することで授業にメリハリが生まれ、集中を持続させることができました。

【特別支援教育の視点から】

聞く、書くことにメリハリをつけることで集中し聞き取りやすくなります。また、視覚的に提示することで、聴覚だけでは理解が難しい児童生徒でも聞いたことを確認することができます。

| 実践例　６４ | 言語化して形を学習しよう【国語】　小学校 |
|---|---|

【目的】

文字の形や要素を確認し、「よこ、ぴたっ。たて、ぴたっ・・・」など言語化することにより、文字の形への認識を高める。

【解説】

ひらがなの各パーツに名前を付け、書き方を言語化して形を覚えるようにする。

こんな成果がありました！

ひらがなが読めても書けない児童のみでなく、クラスの児童が声に出して楽しく字の練習をするようになりました。また、声に出して書くため、どの児童も覚えて意欲的に練習をするようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

視覚的にとらえることが苦手な児童生徒や空間認知の苦手な児童生徒にとって、言語化して覚えることで、形の捉えにくさを補うことができます。視覚と聴覚の両方からのアプローチがあることで、聴覚情報の処理が苦手でも視覚情報の処理が苦手であっても理解しやすくなります。漢字の学習にも同様のことが言えます。

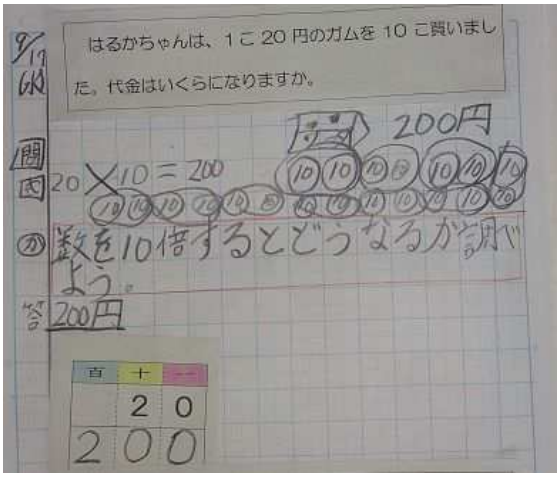
| 実践例　６５ | 考える時間を増やすための工夫【算数】　小学校 |
|---|---|

【目的】

問題を写すことに時間をかけず、考える時間を増やす。

【解説】

問題文は印刷して、ノートに貼らせる。




こんな成果がありました！

書くことに時間がかかる児童も、考える時間を十分確保できました。活動の開始を揃えることができました。

**【特別支援教育の視点から】**

書くことが苦手な児童は問題文を写すことに時間がかかってしまうため、考える時間が削られてしまいます。写さずに済むことで思考することに集中できるとともに、全ての児童生徒の活動の開始を揃えることができます。また、集中の続かない児童生徒にとっては、紙をノートに貼るという作業が入ることで、活動が切り替わり集中しやすくなります。

| 実践例　６６ | リコーダーが吹ける㊙方法【音楽】　小学校 |
|---|---|

【目的】

リコーダーの穴の開いている場所にうまく指をあてられず、いい音が出ない児童が上手に音出しできるようにする。

【解説】

リコーダーの穴の位置に穴パッチシールを貼り、見た目やさわり心地で押さえる場所をはっきり示すようにした。

こんな成果がありました！

なかなか指で押さえる位置が分からず、はっきりと音が出せなかった児童が、穴の位置がよく分かるようになり、リコーダーが上手に吹けるようになった。

**【特別支援教育の視点から】**

リコーダー等の楽器の演奏は、吹きながら指を動かす、見て穴を押さえる、左右が違う動きをするなど複数のことを一度に行う必要があるため、不器用な児童生徒にとっては大変な活動です。その負担を軽減するための支援になります。

| 実践例　６７ | 音を視覚化して【音楽】　小学校 |
|---|---|

【目的】

児童一人ひとりがやり方をスムーズに理解し、楽しくリズム遊びできるようにする。

【解説】

黒板で右の資料を拡大したものを使ってやり方の説明をし、その後、資料を配付し、活動に入る。４つの四角の中に「たん」「うん」カードを並べ、リズムを作る。友達とカードをつなげてリズム遊びを楽しむこともできる。

こんな成果がありました！

どの児童もスムーズに活動に入ることができました。また、カードなので、繰り返し活動をすることができ、時間いっぱいカードを動かしながら、いろいろなリズム遊びを楽しむことができました。

**【特別支援教育の視点から】**

視覚的に音が形として示され、さらに動作まで示されているため、聴覚的な理解の苦手な児童にとっても理解しやすくなります。

| 実践例　６８ | 今、することとは？　小学校 |
|---|---|

【目的】
　学習に見通しをもたせ、今何をやるべきかを明確にする。
【解説】
　言葉で指示した内容が視覚的にも伝わるように、「考える」「話し合う」などを書いた卓上カードを提示し、「今は何をする時かな」とやるべきことがいつでも確認できるようにした。

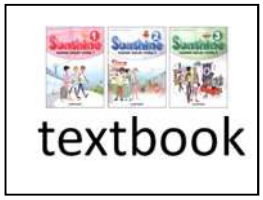
こんな成果がありました！

　視覚的な指示を加えることで授業に対する集中力が増し、言語指示を聞き逃しても、落ち着いて授業に臨めるようになりました。

| 実践例　６９ | 今、取り組んでいるページ・必要な資料は？　中学校 |
|---|---|

①

②



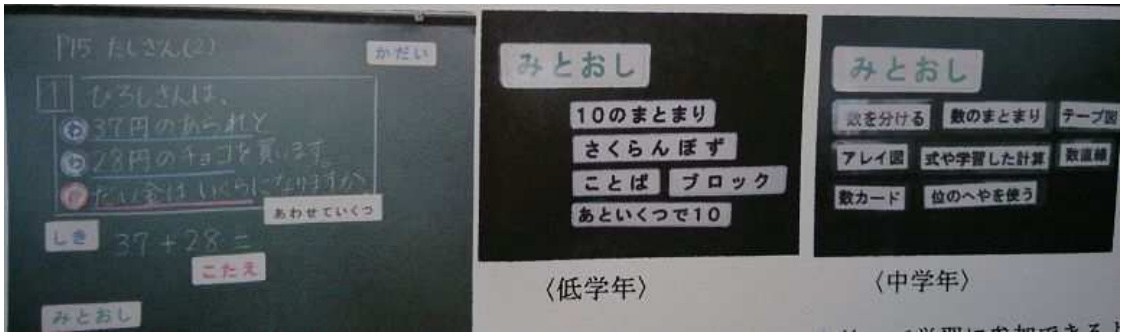
【目的】
　生徒一人ひとりが１回の指示で授業の展開、取組を理解することができるようにする。
【解説】
①　常に黒板に教科書のページや取り組んでいるところを掲示している。
②　指示が英語で行われるために聞き取れない生徒や、聞きもらした生徒がいても、その資料を見ればすぐに分かる。また授業内容が変わる時（例えば、音読からノート作りに変わる時など）にも、教員の口頭指示だけでなく資料を貼り替える作業により、切り替えが明確となる。

こんな成果がありました！

　「分からなくなったらここを見るとよい」という意識が生徒たちに生まれ、授業に集中していない生徒に、黒板を指し示すと、集中するようになりました。
　すっきりした机で授業を受ける生徒が増えました。今では資料がなくても自ら必要な教材のみを揃えることができるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　聞くことが苦手な児童生徒、注意を向けることが苦手な児童生徒、聞いたことを記憶しておくことが苦手な児童生徒にとって、言語のみでの指示は聞き漏らすと確認できないため、活動への取りかかりが遅くなってしまいます。確認できるものがあることで、指示を聞き漏らしても、安心して活動に取り組めます。

| 実践例　７０ | 既習事項のキーワードを活用した板書【算数】　小学校 |
|---|---|




【目的】

自分で授業の見通しをもって参加できるようにする。既習事項を活用できるようにする。

【解説】

算数のキーワードは学年を越えて繰り返し出てくる。カードで掲示することで、視覚的に記憶し、思考過程に定着できるようにする。

こんな成果がありました！

キーワード掲示で、解き方を考えるときに、カードの言葉を想起することで考えの糸口になりました。

**【特別支援教育の視点から】**

記憶することや想起することが苦手な児童生徒にとって、キーワードがあることで、考えを導き出すための手がかりになります。

| 実践例　７１ | たしざん？ひきざん？【算数】　小学校 |
|---|---|

【目的】

文章題のキーワードに着目させることで、加法か減法かの判断ができるようにする。

【解説】

加法や減法のときによく用いられるキーワードを児童とともに考え、教室に掲示し、自力解決の際のヒントとした。

こんな成果がありました！

たし算とひき算の意味の理解が進み、間違いが減少しました。

**【特別支援教育の視点から】**

文章の理解を苦手とする児童生徒、読むことがたどたどしい児童生徒、文章から必要な情報を選択する苦手な児童生徒にとって、キーワードに着目できることで、文章が理解しやすくなります。

| 実践例　７２ | 感想を発表するためのヒントカード　小学校 |
|---|---|

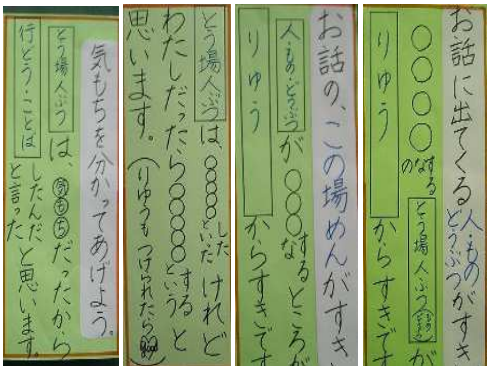
【目的】

感想を言ったり書いたりするときに、必要に応じて型に合わせ、思いをまとめやすくする。

【解説】

空欄を埋めるだけで、感想をまとめられるヒントカードになっている。キーワード部分だけ考えることもできるように色分けしてある。

当該学年を少し発展させて




低学年の国語科の学習と関連させて

こんな成果がありました！

どの児童も積極的に感想を発表することができるようになったり、読み聞かせや読書の感想、学習感想等、思いをまとめることが早くなったりしました。思いを表現することに慣れてきて、型通りではない自分なりの言い方もできるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

頭の中で思考をまとめることが苦手な児童や表現することに自信がない児童にとっては、思考をまとめたり、自信をもって発表したりするための手がかりになります。

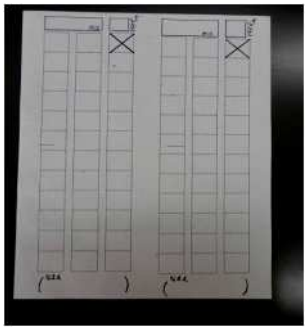
| 実践例　７３ | 作文を書くためのヒントカード　小学校 |
|---|---|

【目的】

作文を書くことが苦手な児童や、原稿用紙の使い方を覚えていない児童が、作文を書けるようにする。

【解説】

一つの内容を一文一枚で書く。文の構成を考えて、並べ直し、後から書き加えたり、順番を入れ替えたりする。清書の際は、書き写す。



こんな成果がありました！

文の構成を考えて、並べ直すことができるので、後から書き加えたり、順番を入れ替えたりしやすく、清書の際も正しく改行することができるようになりました。推敲する際も、一文ずつ（１シートずつ）直すことができるので、児童の負担が少なくなりました。

**【特別支援教育の視点から】**

自分の考えを順序立てるのが苦手な児童生徒、次々といろいろなことを思いついてしまう児童生徒にとって、分かりやすく文をまとめて伝えるための支援になっています。書き直しの負担が少ないことから、書くのが苦手な児童生徒や集中が続かない児童生徒にとっては、意欲を持続するためにも有効な支援になります。

| 実践例　７４ | 選択式ワークシートの工夫　①【生活科】　小学校 |
|---|---|

【目的】

発見したことを自分なりの方法で表現し書けたという満足感をもてるようにする。

【解説】

生活科のワークシートを３種類｛①絵のみ　②絵と文（マス）　③絵と文（行）｝を用意し、子どもが選択して使用する。

こんな成果がありました！

苦手意識をもたずに、ワークシートに記入できるようになりました。また、課題を終わらせる時間に大きな差がなくなりました。

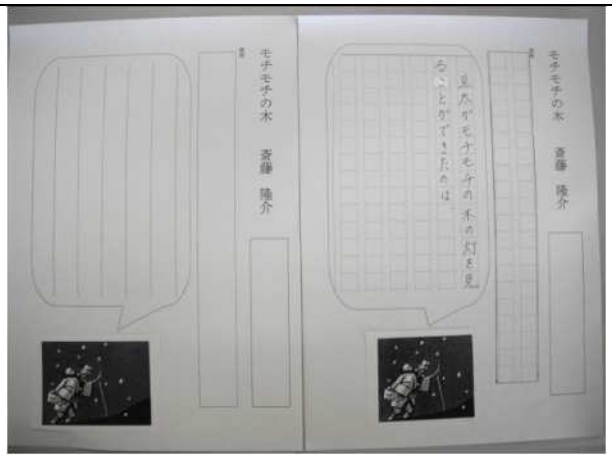
| 実践例　７５ | 選択式ワークシートの工夫　②【国語】　小学校 |
|---|---|

【目的】

児童が自分の力に合わせたワークシートを使って主体的に学習に取り組めるようにする。

【解説】

文字の大きさ等が整わない児童が書きやすいように、マス目やヒントを書いたものと罫線のみのものを両面印刷しておき、児童が選ぶ。



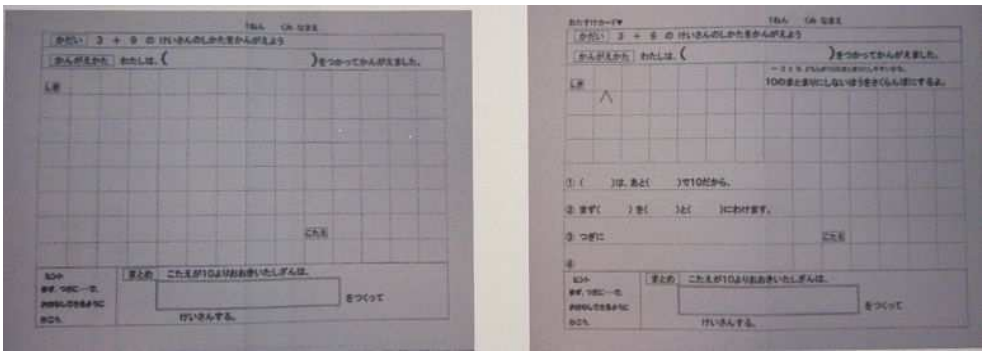

こんな成果がありました！

書くことに抵抗がなくなり、意欲的に学習に取り組むようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**

書くことに時間がかかる子どもにとって、書くことの抵抗を減らし、伝えたい思いを自分なりの方法で伝えることができます。また、自分で選択して取り組み、できた実感を得ることができるため、苦手なことにも意欲的に参加できるようになります。

| 実践例　７６ | ヒントつきワークシートの工夫　①【算数】　小学校 |
|---|---|

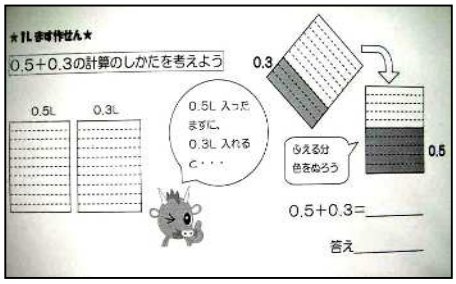


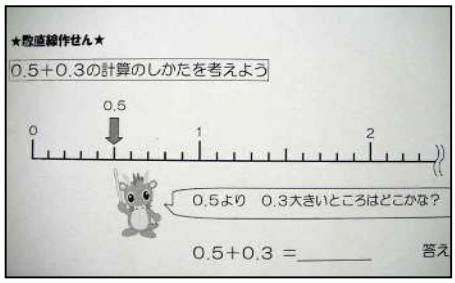
【目的】
　算数の自力解決時にだれもが取り組めるようにする。
【解説】
　工夫して図や言葉の説明を書きながら解ける児童と一番分かりやすい解き方に導くヒント形式が必要な児童に対応できるワークシートを作り、自力解決に取り組むようにする。このようなワークシートを２～３種類準備して選ばせたり、提示したりする。

こんな成果がありました！

　選んで使うことができるため、意欲が高まりました。また、難しいワークシートに挑戦しようという児童もいました。

| 実践例　７７ | ヒントつきワークシートの工夫　②【算数】　小学校 |
|---|---|




【目的】
　学習に対して苦手意識をもつ児童も授業に参加できるようにする。また、課題に対して、自分の考えをもてるようにする。
【解説】
　一つの課題に対して数種類のヒントカードを用意し、自分ができそうなものを選べるようにする。また、視覚化することで、課題をイメージしやすくする。

こんな成果がありました！

　数種類用意することで自分ができそうなものを選ぶことができ、算数に対して苦手意識をもつ児童も、自分の考えを書くことができました。

**【特別支援教育の視点から】**
　苦手意識のある児童生徒でも、ヒントが書いてあるため自分で取り組むことができます。

| 実践例　７８ | 選択式の課題設定の工夫　①【英語】　中学校 |
|---|---|

Read! Read! Read!　Program5 国際フードフェスティバル

| Level A | Level B | Level C | Level D |
|---|---|---|---|
| Where’s the Korean corner？<br>ｳｪｱｰｽﾞ　ｻﾞ　ｺﾘｱﾝ　ｺｰﾅｰ | Where’s the Korean corner? | Where’s the（　　）corner? | 韓国コーナーはどこかしら。 |

【目的】

全ての生徒が、英語の教科書を読めるようにする。

【解説】

Level A はカタカナで読み方をふってある。Level B は教科書通りである。Level C は（　　）の中の単語を暗記して言えるようにする。Level D は日本語訳を見て、英語を言えるようにする。

こんな成果がありました！

授業中に自主的に活動できるようになりました。教科書を読める生徒も Level D があるので満足できるワークシートの内容となっています。

| 実践例　７９ | 選択式の課題設定の工夫　②【国語】　小学校 |
|---|---|

【目的】

児童が自分の力に合わせたワークシートを使って主体的に学習に取り組めるようにする。

【解説】

漢字確認プリントの内容を３段階に分け、自分で選択して漢字の習熟を確認する。レベル１は、正しく読めることを目的としており、ヒントの漢字の中から正しいものを選んで書く。レベル２は、新出漢字を正しく覚えることを目的としているので、穴埋め式になっている。レベル３は、習った漢字を正しく使うことを目的とし、漢字ドリルを使い、ひらがなの文章を漢字で正しく書くようになっている。

**こんな成果がありました！**

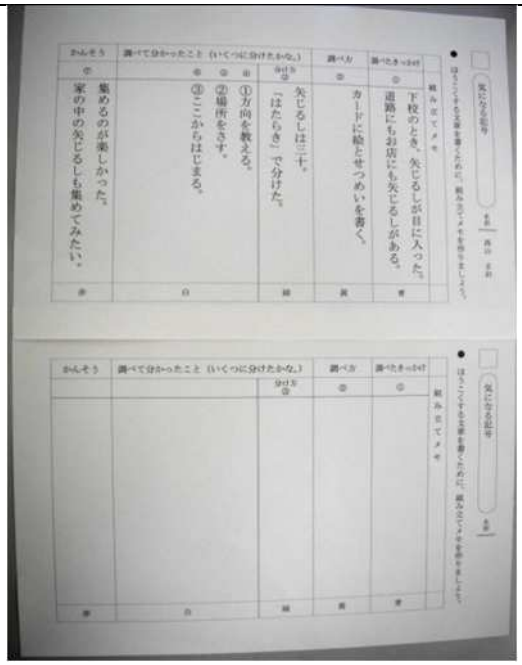
児童が意欲的に学習に取り組めるようになりました。また、自分に合ったものを選び、自分で自分の力を伸ばすことが大切であるという意識と、一人ひとりの能力には差があるが、頑張っている児童を認め、応援することが大切であるという意識が、教員・児童・保護者に定着してきています。

**【特別支援教育の視点から】**

学習に苦手意識をもっている児童生徒でも、自分で選択でき、できた経験を積むことができるので、意欲的に学習に参加することができるようになります。

| 実践例　８０ | 自分でできるワークシートの工夫【国語】　小学校 |
|---|---|

【目的】
　児童が自分の力に合わせたワークシートを使って主体的に学習に取り組めるようにする。
【解説】
　説明文の構成が分かりやすいように、上に見本を示してある。構成に合わせて原稿用紙の色を変え、視覚的に構成が分かるようにする。
　青：きっかけ（動機）　黄：調べ方
　緑：分け方　　白：分かったこと
　赤：感想（まとめ）

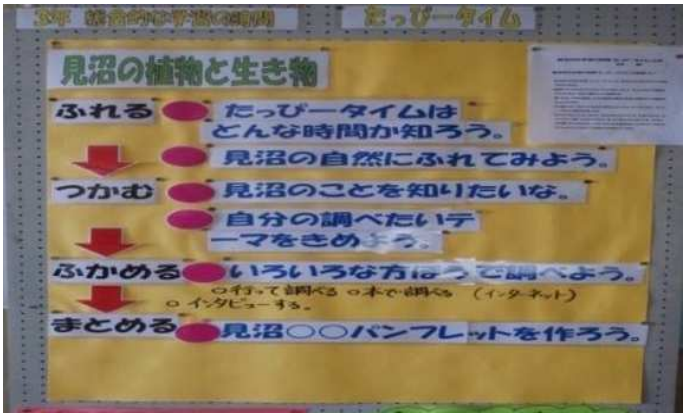


こんな成果がありました！

児童が意欲的に学習に取り組むようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　モデルがあることや色分けすることで、より分かりやすく、学習に苦手意識をもっている児童生徒も自分から取り組みやすくなります。

| 実践例　８１ | 学習の見通しをもつ【総合的な学習の時間】　小学校 |
|---|---|



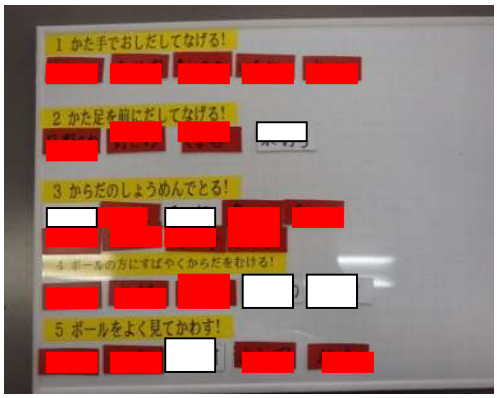

【目的】
　学習の見通しをもち、進んで活動に取り組めるようにする。
【解説】
　学習全体の流れを、「ふれる」「つかむ」「ふかめる」「まとめる」の順に、具体的に示す。

こんな成果がありました！

学習全体の流れが分かり、自分が今取り組むことを確認したり、これからの見通しをもったり、目当てを常に意識したりしながら活動に取り組むことができました。

**【特別支援教育の視点から】**
　見通しがあることで、何をすればよいのかが具体的に分かり、見通しがないと不安な児童生徒やできないかもしれないと取り組もうとしない児童生徒も事前の準備ができ、何ができればよいかが明確なため、活動しやすくなります。

| 実践例　８２ | 目当てを自分で選び自己評価する　小学校 |
|---|---|



【目的】
　自分の具体的な目当てを選び、進んで活動に取り組めるようにする。
【解説】
　毎時間５つの項目から１つ具体的な目当てを選び、カードに記入し、自己評価していく。

こんな成果がありました！

　毎時間自分の具体的な目当てをもって、活動に取り組めるようになりました。分かりやすい目当てなので、練習や自己評価をしやすいです。

| 実践例　８３ | 学習を振り返る　小学校 |
|---|---|

【目的】
　自分で振り返る力を育て、効率よく計画的に学習を進めることができるようにする。
【解説】
　算数科の学習では、単元ごとに振り返りカードを用意して、授業の最後に自己評価をさせる。学習したことは、穴埋め式のものと自由記述式のものを用意し、子どもたちの実態に合わせて使用する。授業後に回収して目を通し、子どもたちの理解度を確認し、指導に生かす。

こんな成果がありました！

　単元を通して、毎時間自己評価する時間を設けたことで、評価の蓄積ができ、子どもたちが達成感を味わうことができました。また、授業で何を学習したのかを最後に振り返ることで、学習の定着を図ることができました。また、事前の学習を生かし、進んで学習に取り組むことができるようになりました。

**【特別支援教育の視点から】**
　何を学べばよいか、何が分かればよいかが分かることで、意欲的に学習に取り組むことができます。目当てが明確なので、自分ができたかどうか評価しやすくなります。また、その評価の積み重ねは自己モニタリングの力を育てます。

| 実践例　８４ | 特別支援教育の視点を取り入れた授業展開例　小・中学校 |
|---|---|

日々の授業実践の中に特別支援教育の視点を取り入れることによって、全ての児童生徒が安心して授業に取り組むことができ、生徒指導における効果も期待できます。

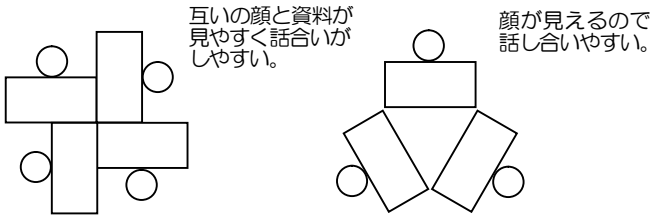
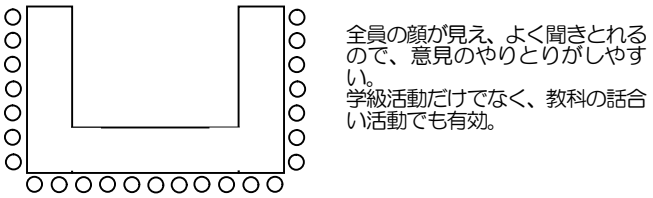
１　基本方針

◎全校で一貫した授業（生活）ルールの明確化

- 授業で使用するものの準備するタイミング、それらの机上への並べ方
- 全ての児童生徒が分かる、参加できる授業（発問、指示の工夫）
- 一斉指導が難しい児童生徒については、校内委員会で指導方針を決め、個別の指導計画に基づいた指導を行う。

２　授業展開例　　●児童生徒の活動　　☆指導上の留意点

| 段　階 | 学　習　活　動 | 補足配慮事項 |
|---|---|---|
| **導入**<br>全員共通して行う学習<br><br>※全員参加できるような内容のものを取り扱う。 | **●　全校で一貫した授業ルールのもと、授業が始められる。**<br>☆チャイムで授業が開始できるようにする。<br>**●　全員参加で授業に取り組む。**<br>☆短い時間の中で、全員で取り組めて、全員に興味・関心をもたせられるような内容のものを行う。（能動性を大切にする）<br>☆前時の内容の復習（声を出す、クイズ、フラッシュカード）、姿勢保持ゲーム　など<br>☆カードで授業の流れ、ねらいを示す。<br>※カードはパウチ、ラミネートで作成、裏は磁石をつけておくとよい。<br>例）国語<br>今日のめあて　課題<br>みんなで　①音読　②読みこみ　③質問タイム<br>ひとりで　④ひとり課題　おたのしみプリント<br>みんなで　⑤まとめ　など | ・１時間の流れが分かる板書の工夫（見通しをもって学習に臨めるようにする。）<br><br>・聞き逃したことがあっても板書を見れば指示が分かるようにする。 |
| **展開**<br>児童生徒の実態や習熟度に合わせた学習<br><br>※授業の流れや思考の過程が分かる板書の工夫をする。『構造化された板書』 | **授業の流れに提示されている内容で授業に取り組む。**<br>**①　個人で取り組む**<br>**②　グループや全体で取り組む**<br>**③　②でお互いに学び合ったことを個人で取り組む**<br>☆個人で取り組むこと（個別の学習）<br>児童生徒が一人で課題に取り組める時間を確保する。<br>☆児童生徒が、今、何を、どこまでやって、それが終わったらどうするかが分かるように、明確に指示する。<br>☆援助の依頼が出せるような工夫をする。<br>「分かりません」、「終わりました」、「質問があります」等、困ったときには静かに教師を呼ぶ、挙手をする等の約束、工夫をあらかじめ明確にしておく。<br>☆称賛的な言葉を用いることで、児童生徒の意欲を高め、集中力が持続できるようにする。<br>☆授業の流れを一定化する。<br>※毎回の授業の流れがある程度決まっていると、見通しがもちやすく、 | ・可能であれば習熟度別にグループ学習を行う。<br><br>・ロッカー等に、一つ課題が終わったら、次の課題を自主的に取りに行けるように準備しておく。<br>※これを繰り返し行うことで、気分 |

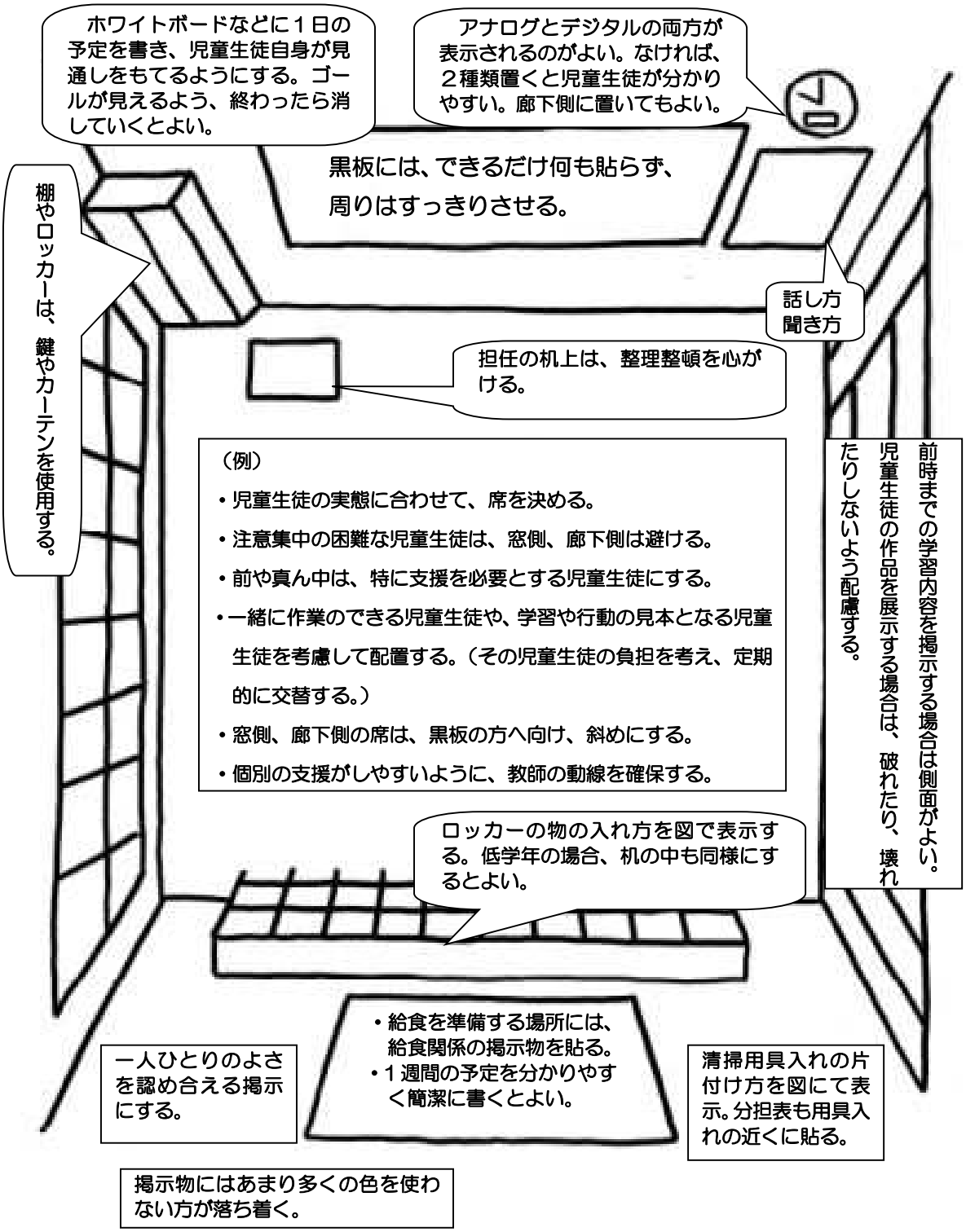
| | | |
|---|---|---|
| | 気持ちや行動が安定する。<br>☆発問、指示は簡潔にし、具体物、絵、写真、図等の提示を多用する。<br>☆課題に取り組む時間の確保、残り時間の視覚化を行う。<br>※児童生徒と取り組む時間を相談して決めるとよい。タイムタイマーの使用も効果的である。<br>☆よくあるつまづき例を教師が示す。<br>※失敗することが苦手な児童生徒も安心して取り組むことができる。<br>☆机の配置の形態を工夫する。（□は机、○は椅子）<br>グループ学習の場<br>  <br><br>一斉学習の場<br>  <br><br>☆２人組、グループの対話時間を設定し、全員が考える時間を確保できるようにする。<br>☆余分な言語指示を減らすために、手を止めるときの合図の工夫をする。（鈴、タイマーなど）<br>☆話合い活動をする時は、話合いの進め方やポイントを書いたカード等を準備する。<br>☆読むP.○　書く　等指示を明確にするためにカードを使い、板書として残せるようにする。<br>☆課題に沿って学習を進められている児童生徒のノートやプリント等を掲示したり、紹介したりすることで、他の児童生徒が課題に近付けるようにしていく。 | 転換をさせることができる。（授業中に座っていられない児童生徒への対応例）<br><br>・机間指導では、時間・順番を決めて個別指導をする児童生徒、一人で課題に取り組ませる児童生徒と、ローテーションをする。<br><br>・疑問、予想、実験、観察、結果、まとめ等のカードを黒板に貼ると、活動の流れが分かりやすい。 |
| まとめ<br>『構造化された板書』を使ったまとめ<br>※視覚的・聴覚的手がかりを使用する。 | **●見通しをもって、次の活動や、終わりに向かって活動に取り組む。**<br>**「○○の活動が終わったらまとめの時間」→「もうすぐ授業が終わる」という見通しをもつ。**<br>☆今回の授業で学んだことを、様々な手がかりを使って振り返る時間を設ける。<br>☆目で見て（板書やノート、プリント）【視覚的な手がかり】、耳で聞いて（音読、まとめの言葉、声に出して）【聴覚的な手がかり】振り返る等。<br>☆授業のはじめに提示した目当てを基に振り返りの場をもてるようにする。<br>☆チャイムで終了する。授業で使用したものを片付けたら業間休みに入るよう指示する。 | |

３　その他（参考文献）

「通常学級の特別支援」　佐藤慎二　日本文化科学社
「入門特別支援学級の学級づくりと授業づくり」　佐藤暁　学研
「特別支援教育早わかり」　黒川君江　小学館
「新しい教育課程と学習活動 Q&A 特別支援教育」全国特別支学校知的障害教育校長会　東洋館出版社

| 実践例　８５ | 特別支援教育の視点を取り入れた教室環境例　小・中学校 |
|---|---|

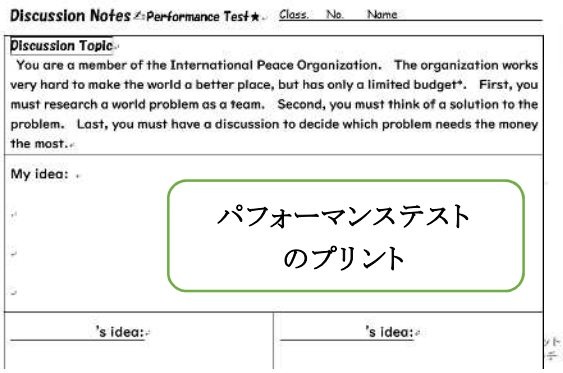
前面は、学校で統一したものを同じ場所に掲示する。（学校教育目標、学年、学級目標、話し方、聞き方、声のものさしなど。学年が上がっても、前面はいつも同じにする。）




教室は、できる範囲ですっきりした配置を心掛けましょう。

| 実践例　８６ | ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を活用した授業の工夫 |
|---|---|

教科書と同じ
パワーポイント




パフォーマンステスト
のプリント

【目的】

見えにくさのある生徒を含め、誰もが見やすい英語表記の提示方法を工夫し、全員が授業内容へのアクセスをよくすることで、主体的に取り組めるようにする。

【解説】

・G・S 教科書では通常 Century のフォントがよく使用されていて、「ag」などの文字をノートに書き表す際に、文字間も狭く、そのまま「a」「g」とノートに転記しようとして、大変時間がかかってしまう生徒がいた。

・「a」と「a 」の違いや、「g」と「g 」などフォントによって書き方が違うため、読みやすさ、書き写しやすさ重視してパワーポイントやプリント等の資料の作成を行った。

・中学３年 G・S 科の単元「Is AI a Friend or an Enemy?」では、「UD デジタル教科書体」のフォントを使用して内容を強調する部分があった。この機会に学校から出すプリントの一部のフォントを「Century」から「UD デジタル教科書体」に変更した。

こんな成果が
ありました！

UD フォントの方が、文字間が開いていて見やすいことや、小学校から学習したローマ字表記（「a 」「g」等）で表記されるため、英文が読みやすく、書き写しもスムーズになった。

**【特別支援教育の視点から】**

**文字の形を正確に認識することが苦手な児童生徒にとって、パソコンのフォントには、読みにくいものも存在します。UD フォントは、多くの人が見やすいように工夫されたフォントであり、このフォントを活用することで、音読や文の読み取りなどに取り組みやすくなります。**

## ユニバーサルデザインフォント（ＵＤフォント）とは・・・

多くの人が見やすいように工夫されており、弱視やディスレクシアの児童生徒にとっても見やすく配慮されたフォント

### ◎効果

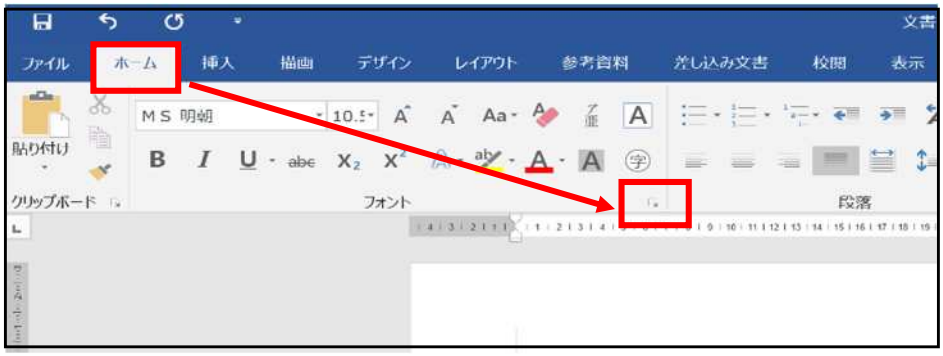
| 視認性 | 判読性 | 可読性 |
|---|---|---|
| 文字が認識しやすい | 他の文字との判別がしやすい | 文章が読みやすい |

教職員用及び児童生徒用端末の既定のフォントに設定することが可能です。

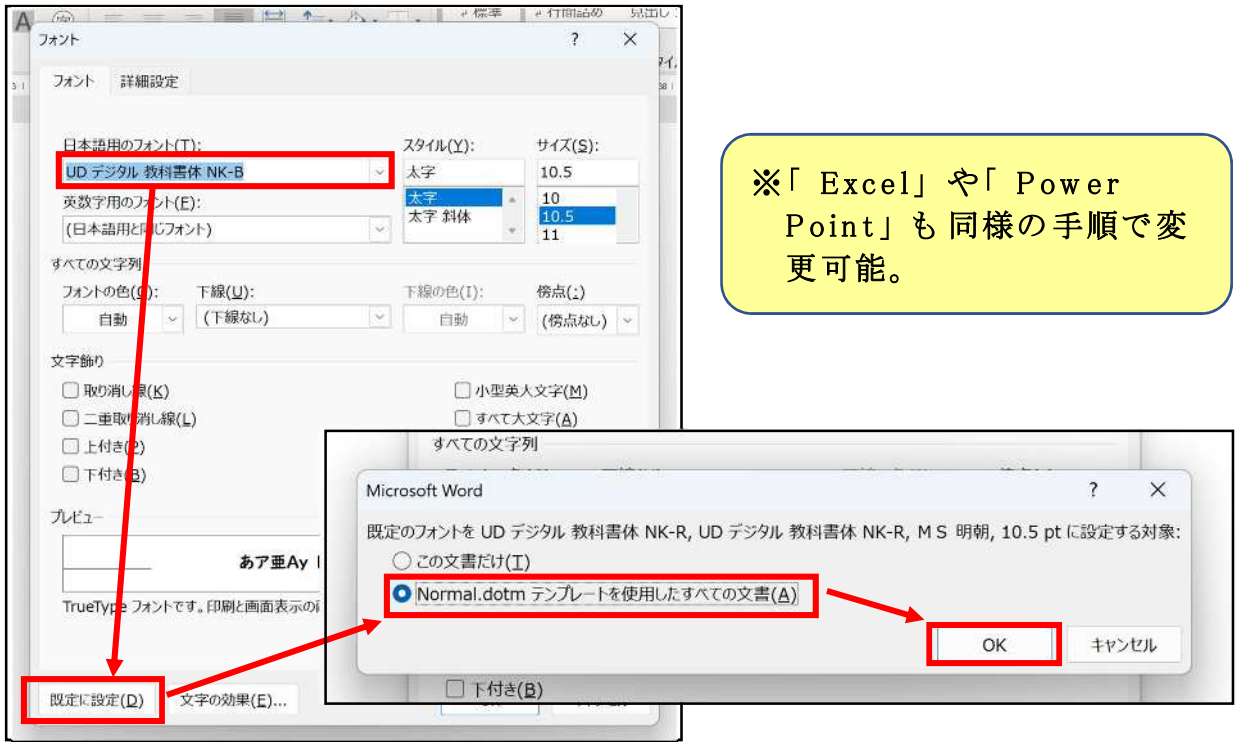
## 端末でユニバーサルデザインフォントを既定のフォントに変更する手順

（「Microsoft Word」の場合）

（１）文書内の「ホーム」タブで、 をクリックする。




（２）「フォント」の「日本語用のフォント」を「ＵＤ デジタル教科書体」に変更後、「既定に設定」をクリックする。適用範囲は、「Normal.dotm テンプレートを使用したすべての文書」を選択する。




※「Excel」や「Power Point」も同様の手順で変更可能。

## ５　生徒指導の視点から【学級づくり・授業づくり】

ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりや学級づくりは、生徒指導とも関連が深いものと言え、生徒指導提要（令和４年１２月　文部科学省）においても、次のようなことが示されています。

～生徒指導提要より（要約）～

＜集団指導＞

あらゆる場面において、児童生徒が人として平等な立場で互いに理解し信頼した上で、集団の目標に向かって励まし合いながら成長できる集団をつくることが大切です。そのために、教職員には、一人一人の児童生徒が、

① 安心して生活できる
② 個性を発揮できる
③ 自己決定の機会を持てる
④ 集団に貢献できる役割を持てる
⑤ 達成感・成就感を持つことができる
⑥ 集団での存在感を実感できる
⑦ 他の児童生徒と好ましい人間関係を築ける
⑧ 自己肯定感・自己有用感を培うことができる
⑨ 自己実現の喜びを味わうことができる

ことを基盤とした集団づくりを行うように工夫することが求められます。

〈教科の指導と生徒指導の一体化〉

授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場となります。教科の指導と 生徒指導を一体化させた授業づくりは、生徒指導の実践上の視点である、自己存在感の感 受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識した 実践に他なりません。教員が学習指導と生徒指導の専門性を合わせもつという日本型学校 教育の強みを活かした授業づくりが、児童生徒の発達を支えます。

- 自己存在感の感受を促進する授業づくり
- 共感的な人間関係を育成する授業
- 自己決定の場を提供する授業づくり
- 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業

＜発達障害のある児童生徒への指導について＞

指導したことを定着させ、確実に身に付けさせていくためには、失敗を指摘して修正するという対応でなく、成功により成就感や達成感を得られる経験を積むこと、そしてそれを認めてくれる人間関係が周囲にあることが重要になります。教員の厳しい対応が学級の児童生徒のモデルとなり、お互いに対して厳しい対応になっていたり、個別的な指導を周囲の児童生徒が特別扱いと受け止め、不満をもっていたりする学級は、全ての児童生徒にとっても安心できる環境とは言えません。個別的な指導を行うためには、それを可能とする学級づくりが大切です。

生徒指導の基盤となるのは、特別支援教育と同様に、児童生徒一人ひとりの児童生徒理解です。学級づくりや授業づくりにおいて、児童生徒理解を深め、どの児童生徒にとっても安心して学べる学級づくり、授業づくりを進めることが大切です。

前述の生徒指導提要を踏まえ、集団指導を行うときには、困難を感じている児童生徒だけでなく、全ての児童生徒が互いの特性等を理解し合い、助け合って共に伸びていこうとする集団づくりを進め、どの児童生徒も落ち着ける場所（居場所づくり）、全ての児童生徒が活躍できる場面（絆づくり）を実現し、安心して学べる学級づくりをする必要があります。

また、教科指導では、児童生徒一人ひとりが、自己存在感や自己有用感を味わい、自尊感情を育て、自己実現を図るために、児童生徒一人ひとりが分かる授業を行うことが必要です。

そのためには、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた学級づくり・授業づくりを進めることが効果的であると言えます。

以下に生徒指導に関連する実践例をあげますので、参考にしてください。

◆実践例との関連（学級づくり）

| 集団づくり | 【実践例】 |
|---|---|
| 安心して生活できる | 教室を温かい雰囲気にする工夫【1】<br>学年どこでも同じ環境で【3】<br>学年どこでも同じルールで【4】<br>一目で分かる整理整頓された環境【7・8】<br>刺激の少ない教室環境【17】<br>見通しをもった生活をするために【26・27】<br>等 |
| 集団への貢献できる役割を持てる<br>達成感・成就感を持つことができる<br>集団での存在感を実感できる<br>自己実現の喜びを味わうことができる<br>自己肯定感・自己有用感を培うことができる | 学級への所属感を高める工夫【5】<br>仕事内容の明確化と確認するための工夫【6】<br>自分で行動できるための工夫【24・25】<br>主体的に行事に参加するための工夫【32】<br>自分たちで動くチャイム着席【37】　等 |
| 他の児童生徒との好ましい人間関係を築ける | 言葉で伝えよう【2】<br>モデルを示して正しい行動を【39・40】<br>等 |

◆実践例との関連（授業づくり）

| 教科指導の観点 | 【実践例】 |
|---|---|
| 自己存在感の感受を促進する授業づくり | 分からないことがあっても大丈夫【45】<br>選択式ワークシートの工夫【74・75】<br>ヒントつきワークシートの工夫【76・77】<br>目当てを自分で選び自己評価する【82】<br>等 |
| 共感的な人間関係を育成する授業 | 学び合おう【ペア・グループ学習】【54】<br>意欲を高める言葉かけ【55】<br>等 |
| 自己決定の場を提供する授業づくり | 発表の仕方のモデルを示す【41】<br>感想を発表するためのヒントカード【72】<br>等 |
| 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業 | 指示の出し方、言葉かけの工夫【47】<br>授業の構造化【48】<br>授業の構成・板書の工夫【49】<br>導入の工夫と児童の考えが見えるワークシートの工夫【51】<br>活動の手順を理解して活動しよう【53】<br>等 |

## ６　教科指導の視点から【授業づくり】

ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりは、よりよい教科指導であるともいえます。ユニバーサルデザインの考えをもとに、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す「学びの指標」を意識した授業の実践が大切です。

【学びの指標】

| |
|---|
| ［１］　主体的な学び |
| ［２］　探究的な学び |
| ［３］　ICTの効果的な活用 |
| ［４］　基本的な授業スキル |

以下に「学びの指標」と関連する実践例を挙げますので、参考にしてください。

| 学びの指標 | 【実践例】 |
|---|---|
| ［１］　主体的な学び | 授業の構成・板書の工夫【49】<br>導入の工夫と児童の考えが見えるワークシートの工夫【51】<br>体験的な活動で理解を深める【56】<br>授業の中に様々な活動を取り入れる【57】<br>既習事項のキーワードを活用した板書【70】<br>感想を発表するためのヒントカード【72】<br>等 |
| ［２］　探究的な学び | 話合いの流れが見える板書と共有化の場の工夫【50】<br>学び合おう【ペア・グループ学習】【54】<br>等 |
| ［３］　ICT の効果的な活用 | ＩＣＴを活用した授業①②【62・63】<br>UDフォントを活用した授業の工夫【８６】<br>等 |
| ［４］　基本的な授業スキル | 指示の出し方、言葉かけの工夫【47】<br>作業の流れを分かりやすく【52】<br>半具体物を用いた授業の工夫【58】<br>文章構成を視覚化する【59】<br>言語化して形を学習しよう【64】<br>学習の見通しをもつ【81】<br>等 |

教育委員会特別支援教育室が作成している冊子一覧（令和８年４月）

| | |
|---|---|
| 特－１ | 特別支援学級の学級経営　―特別支援教育の充実を目指して― |
| 特－２ | さいたま市交流及び共同学習の手引き |
| 特－３ | さいたま市通級による指導の手引き |
| 特－４ | さいたま市立特別支援学校医療的ケア実施要項 |
| 特－５ | さいたま市特別支援ネットワーク連携協議会実践マニュアル |
| 特－６ | 特別支援教育に係る就学・転学事務及び支援相談の手引　ー管理職・特別支援教育担当者必携ー |
| 特－７ | 支援教室の手引き |
| 特－８ | ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりガイドブック |
| 特－９ | さいたま市学校職員における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領 |

【参考資料】

・特別支援教育の推進について（通知）　（文部科学省）

・共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）　（中央教育審議会初等中等教育分科会）

・すべての教員のためのインクルーシブ教育システム構築研修ガイド
（独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所）

・通常学級での特別支援教育のスタンダード
（東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会　with　小貫悟）

・生徒指導提要　（文部科学省）

・生徒指導リーフ：発達障害と生徒指導　Leaf３
（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）

【資料提供】
さいたま市立幼稚園（旧さいたま市立幼児教育センター・付属幼稚園）・
小・中・高等学校の教員
【協力】
平成２６年度
さいたま市立幼稚園（旧さいたま市立幼児教育センター・付属幼稚園）・
小・中・高等学校特別支援教育コーディネーター
【作成・発行】
さいたま市教育委員会　特別支援教育室
初版発行　　平成２７年４月
第８版発行　令和８年４月

この冊子は２５０部作成し、１部あたりの印刷経費は３５２円（概算）です。